

米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会の概要

食品安全委員会は、平成17年11月2日～29日の間、関係者の意見・情報の募集を行った「米国・カナダの輸出プログラムにより管理された牛肉・内臓を摂取する場合と、我が国の牛に由来する牛肉・内臓を摂取する場合のリスクの同等性」に係る食品健康影響評価（案）」について、意見・情報の募集期間中に関係者間の意見交換を図るため、11月14日から全国7カ所で意見交換会を開催した。その概要は以下のとおりである。

．意見交換会のプログラム

1. 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価（案）について説明
（食品安全委員会プリオン専門調査会専門委員）
2. パネルディスカッション
（消費者、生産者、事業者、専門家及び関係行政機関）
3. 会場参加者との意見交換

日付	時間	開催地	会場
平成17年11月14日(月)	14:00-17:00	札幌	シェラトンホテル札幌
平成17年11月15日(火)	14:00-17:00	大阪	梅田スカイビル スペース36L
平成17年11月16日(水)	14:00-17:00	仙台	斎藤報恩会館
平成17年11月17日(木)	14:00-17:00	福岡	ホテルレガロ福岡
平成17年11月18日(金)	14:00-17:00	広島	NTTクレドホール
平成17年11月21日(月)	14:00-17:00	名古屋	ナチュラルホテルエルセラーン
平成17年11月22日(火)	14:00-17:00	東京	日本青年館

（各会場の出席者等については、別紙1及び2参照）

．意見交換会で出された主な意見等

（別紙3参照）

．アンケートの結果

（別紙4参照）

- 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会 出席者 -

11月	地域	開会挨拶 食品安全委員会	講演者 プリオン専門調査会	パネルディスカッション				関係行政機関	
				コーディネーター	消費者	生産者	外食産業/流通・加工業	厚生労働省	農林水産省
14日(月)	札幌	見上彪	堀内基広	増田淳子 (農政ジャーナリスト)	前濱喜代美 (生活協同組合 コープさっぽろ理事)	奥秋博巳 (JA土幌緑陽肉用 牛牧場代表)	中井尚 (社)日本フードサー ビス協会事務局長兼 業務部長)	蟹江誠 (医薬食品局食品安 全部監視安全課 BSE対策専門官)	高橋直人 (大臣官房審議官)
15日(火)	大阪	寺尾允男	小野寺節	中村靖彦 (食品安全委員会 委員)	飯田秀男 (全大阪消費者団体連 絡会事務局長)	八木春樹 (有)八木畜産)	山本宏樹 (株)ニチレイ 品質保証部長)	道野英司 (医薬食品局食品安 全部監視安全課輸入 食品安全対策室長)	伊地知俊一 (大臣官房参事官)
16日(水)	仙台	寺田雅昭	小野寺節	中村雅美 (日本経済新聞社 編集局科学技術部 編集委員)	入間田範子 (宮城県生活協同組合 連合会常務理事)	大友学 (古川農業協同組合 肉牛部会長)	大川原潔 (仙台牛たん振興会 会長)	森田剛史 (医薬食品局食品安 全部企画情報課情報 管理専門官)	高橋直人 (大臣官房審議官)
17日(木)	福岡	見上彪	甲斐諭	中村雅美 (日本経済新聞社 編集局科学技術部 編集委員)	陶山恵子 (エフコープ生活協同 組合理事長)	三宅貞行 (JA福岡県肉用牛 生産者の会会長)	小笠原荘一 (日本チェーンストア 協会常務理事)	森田剛史 (医薬食品局食品安 全部企画情報課情報 管理専門官)	伊地知俊一 (大臣官房参事官)
18日(金)	広島	寺尾允男	小野寺節	中村雅美 (日本経済新聞社 編集局科学技術部 編集委員)	岡村信秀 (広島県消費者団体連 絡協議会 事務局長)	山崎逸郎 (全国農業協同組合 連合会広島県本部 畜産部長)	旦有孝 (社)日本フードサー ビス協会BSE対策実 行委員会委員)	桑崎俊昭 (医薬食品局食品安 全部監視安全課長)	伊地知俊一 (大臣官房参事官)
21日(月)	名古屋	小泉直子	山本茂貴	増田淳子 (農政ジャーナリスト)	楓健年 (愛知県消費者団体連 絡会代表幹事)	伊藤厳悟 (肉用牛繁殖肥育一 貫経営、下呂市議 会議員、元飛騨肉 牛生産協議会会長)	多賀谷保治 (社)日本フードサー ビス協会BSE対策実 行委員会委員)	蟹江誠 (医薬食品局食品安 全部監視安全課 BSE対策専門官)	高橋直人 (大臣官房審議官)
22日(火)	東京	寺田雅昭	吉川泰弘	中村靖彦 (食品安全委員会 委員)	神田敏子 (全国消費者団体 連絡会事務局長)	津久井富雄 (有)グリーンハー トT&K 代表取締役社長)	加藤一隆 (社)日本フードサー ビス協会専務理事)	道野英司 (医薬食品局食品安 全部監視安全課輸入 食品安全対策室長)	伊地知俊一 (大臣官房参事官)

食品に関するリスクコミュニケーション - 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会 - 参加者(速報値)

内訳については参加申込み時の申込者の自己申告に基づく。

都市名	日時	参加者 総計	参加者数									アンケート 回収数
			消費者団体	生産者	食品関連事 業者	研究・教育 機関	マスコミ関係 者	行政関係者	無職	その他	不明記	
札幌	平成17年11月14日(月)	93	8	6	12	1	15	17	3	13	18	48
大阪	平成17年11月15日(火)	149	30	0	20	5	8	37	16	5	28	101
仙台	平成17年11月16日(水)	89	15	3	17	0	10	24	5	6	9	50
福岡	平成17年11月17日(木)	107	5	13	10	2	6	29	10	9	23	69
広島	平成17年11月18日(金)	123	18	8	17	3	11	34	5	9	18	72
名古屋	平成17年11月21日(月)	111	11	4	11	1	8	33	15	11	17	85
東京	平成17年11月22日(火)	233	41	7	54	6	34	29	12	26	24	109
合 計		905	128	41	141	18	92	203	66	79	137	534
			14.1%	4.5%	15.6%	2.0%	10.2%	22.4%	7.3%	8.7%	15.1%	59.0%

米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会で出された主な意見等

1. 評価に関する意見等

(1) 全体及び結論関係

- ・ リスクの同等性についての評価は困難だが、輸出プログラムが遵守されればリスクの差は小さいという結論はわかりにくい。
- ・ 同等性についての評価が困難ならば、輸出プログラムが遵守されればリスクの差は小さいという点は付帯事項とすべき。
- ・ そもそも米国、カナダでの規制遵守に不安があるので、輸出プログラムの遵守を前提とした評価は成り立たないのではないか。
- ・ 評価書の内容が難解である。特に結論部分の解釈が難しい。
- ・ 国際的な管理月齢となっている 30 ヶ月齢の牛由来の食肉、内臓の安全性を評価すべき。
- ・ 米国、カナダにおける BSE リスクのみでなく、日本向け牛肉等による vCJD のリスクの評価に重点を置くべき。
- ・ 提出された意見・情報（パブリックコメント）や意見交換会での意見等がどのように反映されるのか明らかにすべき。

(2) 侵入、暴露リスク関係

- ・ 侵入リスクについて、英国以外の欧州産牛のリスクを英国産の 1/100 とするのは、不適切である。
- ・ 侵入リスク、暴露リスクの我が国と米国、カナダの対比について、計算根拠を明示すべき。
- ・ 牛由来肉骨粉の豚、鶏への給与が禁止されていないなど飼料規制が不十分な米国、カナダでは交差汚染のリスクが大きいのではないか。
- ・ 米国における CWD の蔓延、鶏糞の飼料給与によるリスクについて、もっと調査審議すべき。

(3) と畜、牛肉、内臓関係

- ・ 生理学的成熟度と月齢の関係については、詳細な検討が加えられるべき。A40 であれば 20 ヶ月齢以下という根拠は乏しいのではないか。
- ・ と畜前検査について、計算上、米国、カナダでは 1 頭あたり 12 秒で、日本では 80 秒となることをもって、長い方がよいというような印象を与

えるのは不適切である。

- ・ BSE プリオンの感染価の 99%以上が SRM にあるというが、それ以外にもあるならば、SRM 除去をもって安全とはいえないのではないか。

(4) 輸出プログラム関係

- ・ 輸出プログラムの遵守のための手続きに、我が国が主体的に関与できるような具体的な方策を評価書の中で示すべき。
- ・ 国内対策の際には、飼料規制、SRM 除去及び検査でもって安全性が確保されるとしたのに、米国・カナダ産牛肉については、20 ヶ月齢以下であれば飼料規制も検査も要らないというのは矛盾ではないか。

(5) その他

- ・ 調査審議に時間がかかりすぎた。
- ・ もっと時間をかけて慎重に調査審議すべきだった。
- ・ 米国、カナダからの政治的、経済的圧力に負けた評価結果となったのではないか。
- ・ BSE や vCJD、プリオンの研究の進捗状況を明らかにして欲しい。
- ・ 食品のリスクやリスク分析の考え方についてもっと説明すべき。

2. 管理措置に関する意見等

(1) 輸入再開関係

- ・ 米国・カナダ産牛肉等の安全性については、飼料規制や SRM 除去の遵守状況、骨肉の成熟度による月齢判別などの点で未だ不安があるので、輸入再開には反対である。
- ・ 米国・カナダ産牛肉の輸入再開によって、折角回復した消費者の牛肉に対する信頼が損なわれる懸念がある。国は、国内での BSE 発生後、全頭検査、トレーサビリティなどの努力によって、牛肉への信頼が回復したことに留意すべき。
- ・ 輸入を再開するのであれば、消費者の選択を可能とするため、米国・カナダ産牛肉・内臓が入っているもの全てについて原産地表示義務を課すべき。
- ・ リスクの差は小さいということが明らかになったのだから、早く輸入再開をして欲しい。
- ・ 米国、カナダにも全頭検査を求めるべき。

(2) 輸出プログラム関係

- ・ 輸入を再開するのであれば、輸出プログラムの内容や査察などの担保方法について国民によく説明してからにして欲しい。
- ・ 現地での査察は十分に行い、結果については公表して欲しい。
- ・ 輸入を再開した場合でも輸出プログラムの遵守が不十分な場合は、輸入を再中止すべき。
- ・ 我が国には生産履歴の記録やBSE検査などの義務があるのに対し、米国、カナダでは義務となっていない。輸入再開するのであれば条件を同じにして欲しい。
- ・ 米国、カナダに対して、サーベイランス、飼料規制、SRM 除去を充実、徹底すべき旨申し入れるべき。

(3) その他

- ・ 日本人はvCJDを発生しやすいとされる遺伝子組成をもっている人が多いので、安全対策は万全を期すべき。
- ・ 検査月齢、SRM 除去などのリスク管理措置は、国際的に整合のとれたものとして欲しい。
- ・ 商品の選択は消費者に任せるべき。
- ・ 全頭検査は牛肉の安全性への信頼に不可欠なので継続すべき。
- ・ 全頭検査は安全性を担保するものではないことをもっと国民に説明すべき。
- ・ 米国、カナダでは行われていないピッシングについては、我が国でも早急に中止して欲しい。

食品に関するリスクコミュニケーション 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会 アンケート集計結果

開催日：2005年11月14日（月）～11月22日（火）

参加者数：905名 回答数：534名 回答率：59.0%

問1. あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。**性別**

回答内容	件数	割合
1.男性	351	65.7%
2.女性	181	33.9%
無回答	2	0.4%
	534	100.0%

年齢

回答内容	件数	割合
1.20歳未満	2	0.4%
2.20歳代	32	6.0%
3.30歳代	92	17.2%
4.40歳代	166	31.1%
5.50歳代	157	29.4%
6.60歳代	67	12.5%
7.70歳以上	17	3.2%
無回答	1	0.2%
	534	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1.消費者団体	116	21.7%
2.主婦、学生、無職	66	12.4%
3.生産者	32	6.0%
4.食品関連事業者	114	21.3%
5.マスコミ	2	0.4%
6.行政	136	25.5%
7.食品関連研究・教育機関	20	3.7%
8.その他	39	7.3%
無回答	9	1.7%
	534	100.0%

本日の意見交換会開催をお知りになった方法（複数回答）

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1.食品安全委員会のホームページ	146	27.3%
2.食品安全委員会からのご案内資料	101	18.9%
3.関係団体からのご案内資料	210	39.3%
4.知人からの紹介	36	6.7%
5.新聞やインターネットからの情報	35	6.6%
6.その他	19	3.6%
無回答	9	1.7%
	556	

本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1.今回、プリオン専門調査会がまとめた審議結果（案）について詳細を知りたかったから	178	33.3%
2.米国およびカナダにおけるBSE対策についての情報を入手したかったから	96	18.0%
3.行政や専門家に直接意見を言いたかったから	40	7.5%
4.業務の一環として参加する必要があったから	96	18.0%
5.政府の行うリスクコミュニケーションの取組みについて関心があったから	70	13.1%
6.その他	17	3.2%
無回答	37	6.9%
	534	100.0%

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

回答内容	件数	割合
1.強く思う	302	56.6%
2.やや思う	170	31.8%
3.あまりそう思わない	22	4.1%
4.全くそう思わない	20	3.7%
5.わからない	4	0.7%
無回答	16	3.0%
	534	100.0%

問2.【意見交換会に参加する前】と【意見交換会に参加して】について
審議結果(案)の結論について

【意見交換会に参加する前】

回答内容	件数	割合
1.理解している	296	55.4%
2.理解していなかった	106	19.9%
3.どちらともいえない	112	21.0%
無回答	20	3.7%
	534	100.0%

【意見交換会に参加して】

回答内容	件数	割合
1.理解が深まった	267	50.0%
2.変化なし	188	35.2%
3.わからなくなった	45	8.4%
無回答	34	6.4%
	534	100.0%

今回の食品健康影響評価の、プリオン専門調査会での調査審議期間について
【意見交換会に参加する前】

回答内容	件数	割合
1.短すぎた	210	39.3%
2.適当であった	203	38.0%
3.長すぎた	79	14.8%
無回答	42	7.9%
	534	100.0%

【意見交換会に参加して】

回答内容	件数	割合
1.短すぎた	221	41.4%
2.適当であった	211	39.5%
3.長すぎた	53	9.9%
無回答	49	9.2%
	534	100.0%

我が国の食品安全行政の役割分担について

【意見交換会に参加する前】

回答内容	件数	割合
1.知っていた	417	78.1%
2.知らなかった	96	18.0%
無回答	21	3.9%
	534	100.0%

【意見交換会に参加して】

回答内容	件数	割合
1.理解が深まった	175	32.8%
2.変化なし	295	55.2%
3.わからなくなった	30	5.6%
無回答	34	6.4%
	534	100.0%

食品安全委員会の取組について**【意見交換会に参加する前】**

回答内容	件数	割合
1.信頼していた	206	38.6%
2.信頼していなかった	65	12.2%
3.どちらともいえない	240	44.9%
無回答	23	4.3%
	534	100.0%

【意見交換会に参加して】

回答内容	件数	割合
1.信頼が深まった	103	19.3%
2.変化なし	323	60.5%
3.不信感が深まった	69	12.9%
無回答	39	7.3%
	534	100.0%

問3.本日の意見交換会の実施方法についてお聞きします。**意見交換会の開催時期（意見・情報の募集期間中の開催）**

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	38	7.1%
2.適切だった	347	65.0%
3.あまり適切ではない	99	18.5%
4.全く適切ではない	18	3.4%
無回答	32	6.0%
	534	100.0%

意見交換会の開催方法（開催お知らせの方法、参加の手続き）

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	17	3.2%
2.適切だった	339	63.5%
3.あまり適切ではない	122	22.8%
4.全く適切ではない	22	4.1%
無回答	34	6.4%
	534	100.0%

配布資料

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	26	4.9%
2.わかりやすかった	323	60.5%
3.わかりにくかった	142	26.6%
4.全くわからなかった	1	0.2%
無回答	42	7.9%
	534	100.0%

専門家による講演

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	34	6.4%
2.わかりやすかった	286	53.6%
3.わかりにくかった	165	30.9%
4.全くわからなかった	8	1.5%
無回答	41	7.7%
	534	100.0%

パネルディスカッションの進め方

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	29	5.4%
2.適切だった	330	61.8%
3.あまり適切ではない	106	19.9%
4.全く適切ではない	10	1.9%
無回答	59	11.0%
	534	100.0%

意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	14	2.6%
2.わかりやすかった	253	47.4%
3.わかりにくかった	181	33.9%
4.全くわからなかった	10	1.9%
無回答	76	14.2%
	534	100.0%

意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1.評価する	44	8.2%
2.おおむね評価する	306	57.3%
3.あまり評価しない	113	21.2%
4.全く評価しない	7	1.3%
無回答	64	12.0%
	534	100.0%

問4. 食品安全委員会の取組のうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

(複数回答)

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1.委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと	238	44.6%
2.食品安全委員会のホームページ	367	68.7%
3.食の安全ダイヤル	154	28.8%
4.食品安全モニター制度	202	37.8%
5.季刊誌『食品安全』	209	39.1%
6.食品の安全性に関する用語集	222	41.6%
7.食品の安全性に関する政府広報	133	24.9%
8.その他	3	0.6%
無回答	109	20.4%
	1637	

問5. 今後食品安全委員会の行う意見交換会で取り上げてほしいテーマはありますか。

(複数回答)

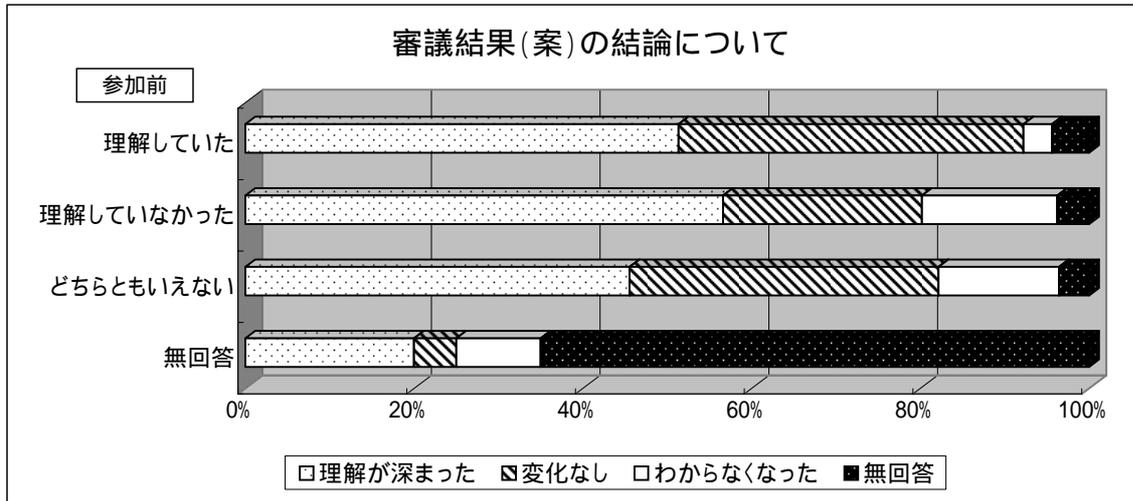
回答内容	件数	回答者数に対する割合
1.残留農業	182	34.1%
2.食品添加物	135	25.3%
3.食品中に混入する汚染物質	109	20.4%
4.遺伝子組み換え食品	190	35.6%
5.動物用抗菌性物質	105	19.7%
6.BSE	146	27.3%
7.有害微生物・ウイルス	131	24.5%
8.新開発食品	63	11.8%
9.リスクコミュニケーション	78	14.6%
10.その他	26	4.9%
無回答	66	12.4%
	1231	

米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に関する意見交換会 アンケート分析結果

問2 【意見交換会に参加する前】と【意見交換会に参加して】

審議結果（案）の結論について

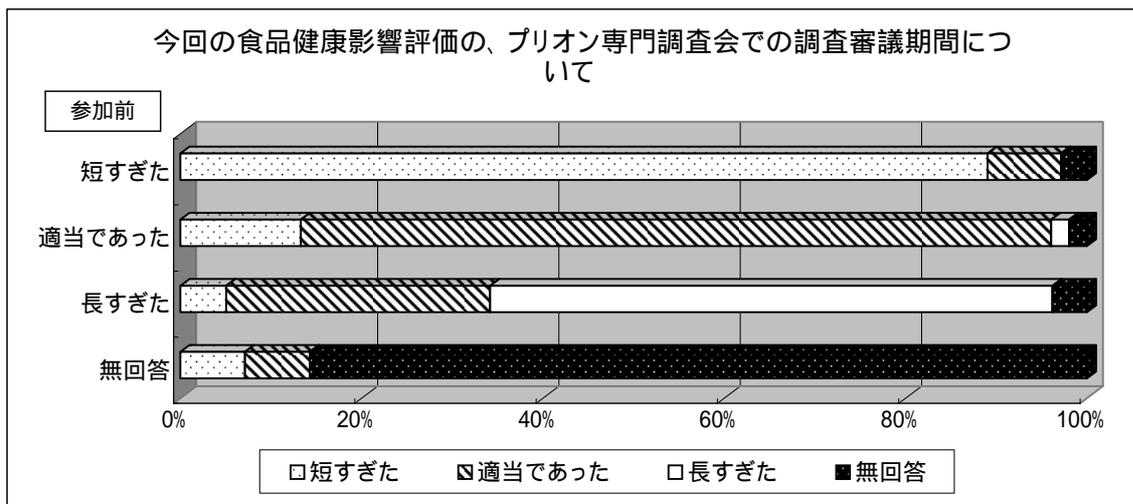
参加前\参加後	理解が深まった	変化なし	わからなくなった	無回答	合計
理解していた	152	121	10		13 296
理解していなかった	60	25	17		4 106
どちらともいえない	51	41	16		4 112
無回答	4	1	2		13 20



意見交換会参加前に審議結果（案）を「理解していた」と回答したのは全回答者数のうち、1/2以上。「理解していた」「理解していなかった」「どちらともいえない」と回答した人のうちそれぞれ半数以上が、意見交換会参加後に「理解が深まった」と回答。

今回の食品健康影響評価の、プリオン専門調査会での調査審議期間について

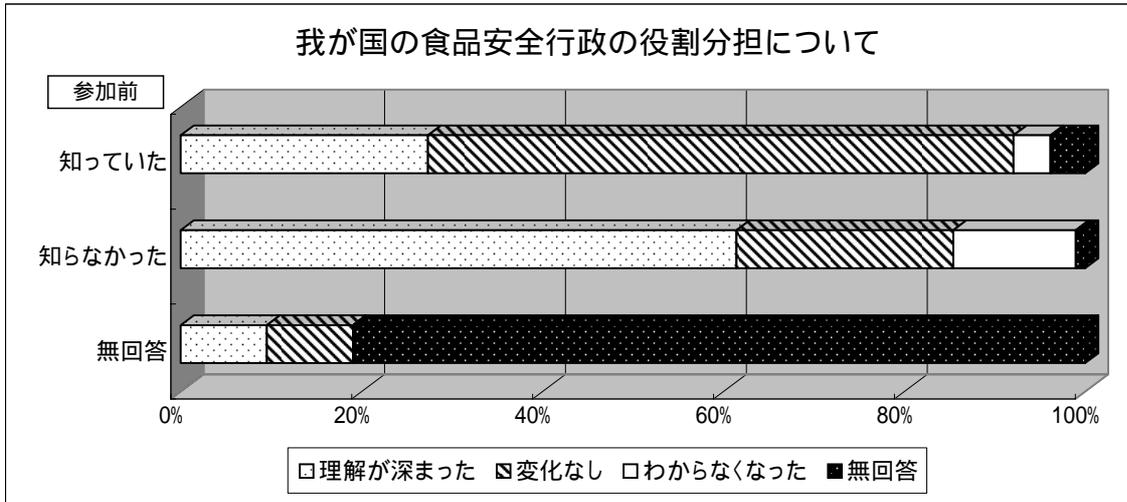
参加前\参加後	短すぎた	適当であった	長すぎた	無回答	合計
短すぎた	187	17	0		6 210
適当であった	27	168	4		4 203
長すぎた	4	23	49		3 79
無回答	3	3	0		36 42



専門調査会での調査審議期間について、「短すぎた」「適当であった」と回答したのは全体の3/4以上。参加前に「短すぎた」「適当であった」と回答した人のうち8割以上は参加後も意見の変化はみられなかった。参加前に「長すぎた」と答えた人のうち、約3割の人は開催後に「適当であった」と変化がみられた。

我が国の食品安全行政の役割分担について

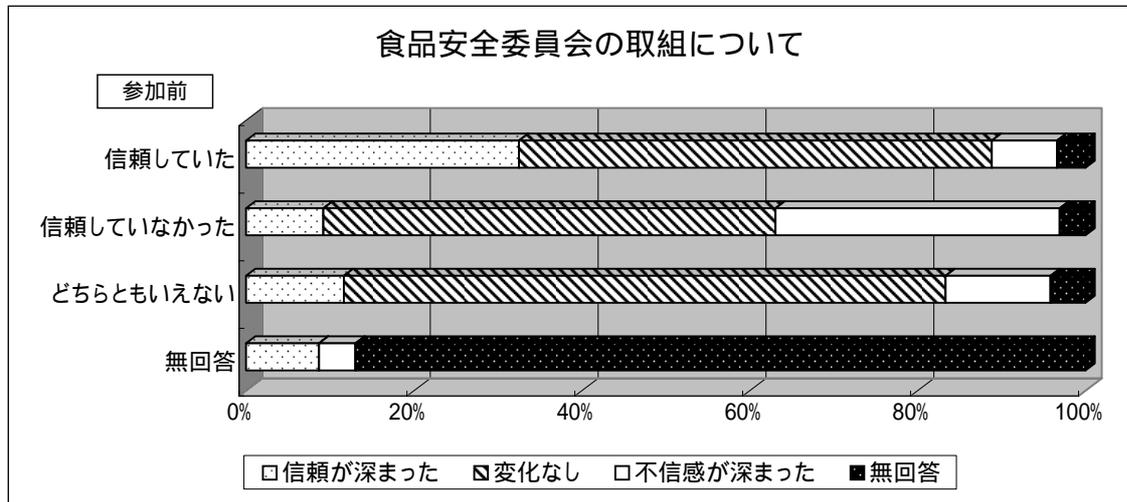
参加前\参加後	理解が深まった	変化なし	わからなくなった	無回答	合計
知っていた	114	270	17	16	417
知らなかった	59	23	13	1	96
無回答	2	2	0	17	21



意見交換会参加前に役割分担について、「知っていた」と回答した人のうち、9割以上が「理解が深まった」、「変化なし」と回答。
 参加前に「知らなかった」と回答した人のうち、6割以上が「理解が深まった」と回答。

食品安全委員会の取組について

参加前\参加後	信頼が深まった	変化なし	不信感が深まった	無回答	合計
信頼していた	67	116	16	7	206
信頼していなかった	6	35	22	2	65
どちらともいえない	28	172	30	10	240
無回答	2	0	1	20	23

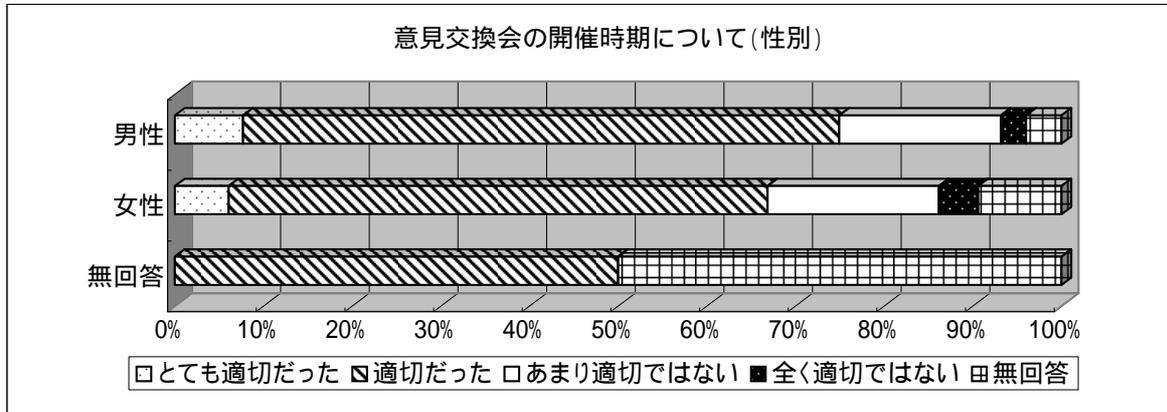


意見交換会参加前に「信頼していた」と回答した人のうち、意見交換会後「信頼が深まった」「変化なし」と回答した人は8割以上。「信頼していなかった」と回答した人のうち、「信頼が深まった」と回答した人は1割未満。意見交換会の参加後に食品安全委員会への「信頼が深まった」、また「信頼していた」と回答した人のうち「変化なし」と回答した人は、全回答者中4割程度。

問3

開催時期 × 性別

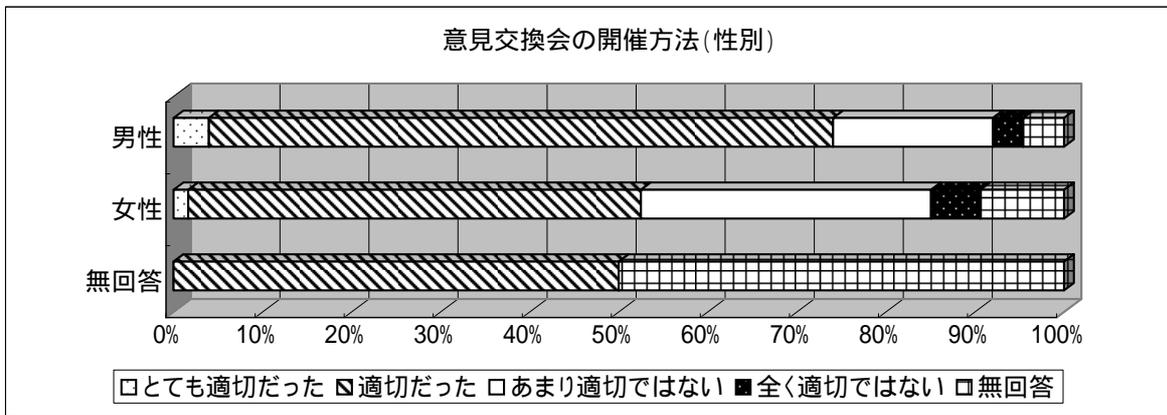
	とても適切だった	適切だった	あまり適切ではない	全く適切ではない	無回答	合計
男性	27	236	64	10	14	351
女性	11	110	35	8	17	181
無回答	0	1	0	0	1	2



男女ともに6割以上が、意見交換会の開催時期については「適切であった」と回答。

開催方法 × 性別

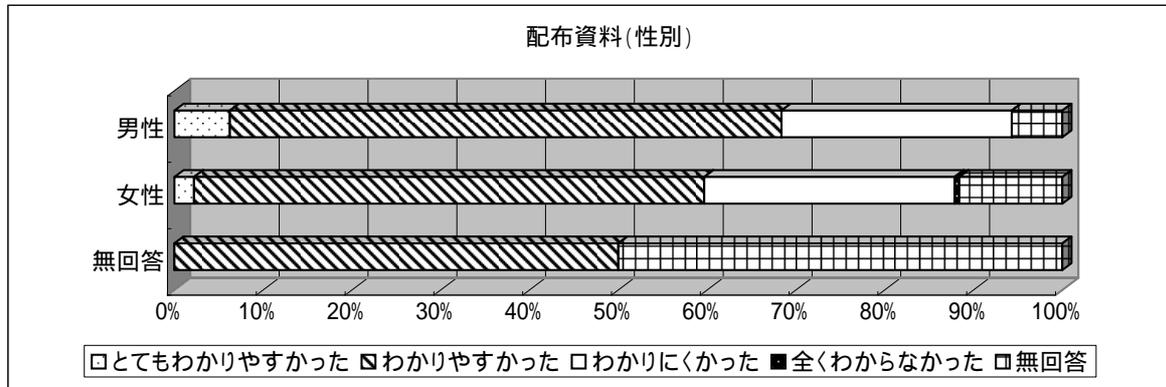
	とても適切だった	適切だった	あまり適切ではない	全く適切ではない	無回答	合計
男性	14	246	63	12	16	351
女性	3	92	59	10	17	181
無回答	0	1	0	0	1	2



開催方法については、男性の7割以上、女性の5割以上の回答者が「適切だった」と回答。

配布資料 × 性別

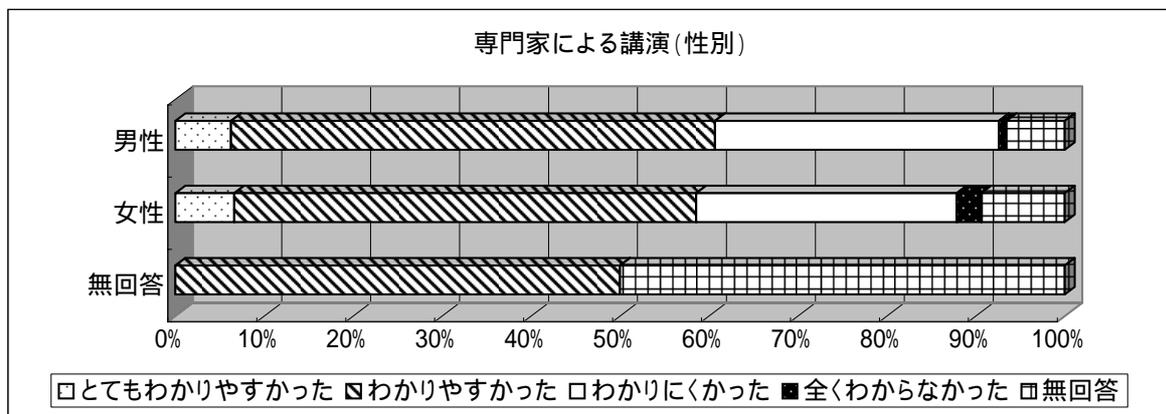
	とてもわかりやすかった	わかりやすかった	わかりにくかった	全くわからなかった	無回答	合計
男性	22	218	91	0	20	351
女性	4	104	51	1	21	181
無回答	0	1	0	0	1	2



配布資料については男性の6割以上、女性の5割以上の回答者が「わかりやすかった」と回答。

専門家による講演 × 性別

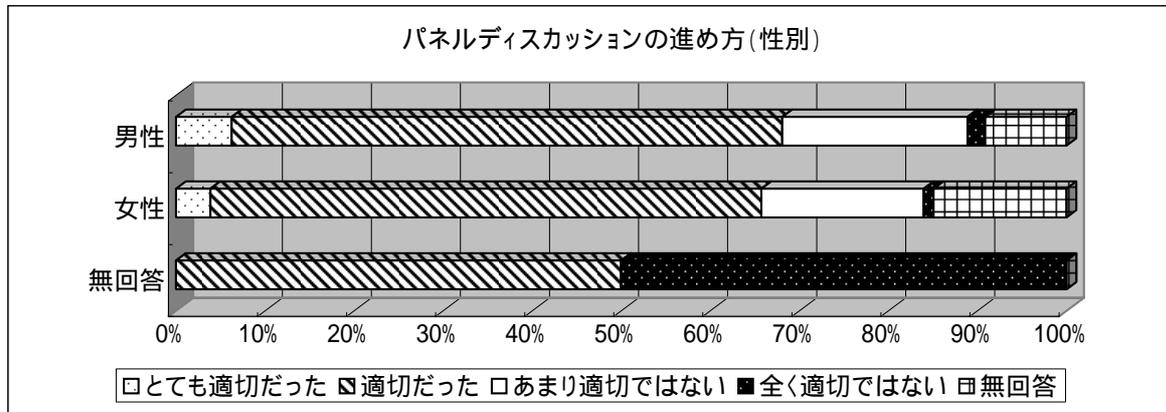
	とてもわかりやすかった	わかりやすかった	わかりにくかった	全くわからなかった	無回答	合計
男性	22	191	112	3	23	351
女性	12	94	53	5	17	181
無回答	0	1	0	0	1	2



専門家による講演については、男女とも6割近くの回答者が「わかりやすかった」と回答。

パネルディスカッションの進め方×性別

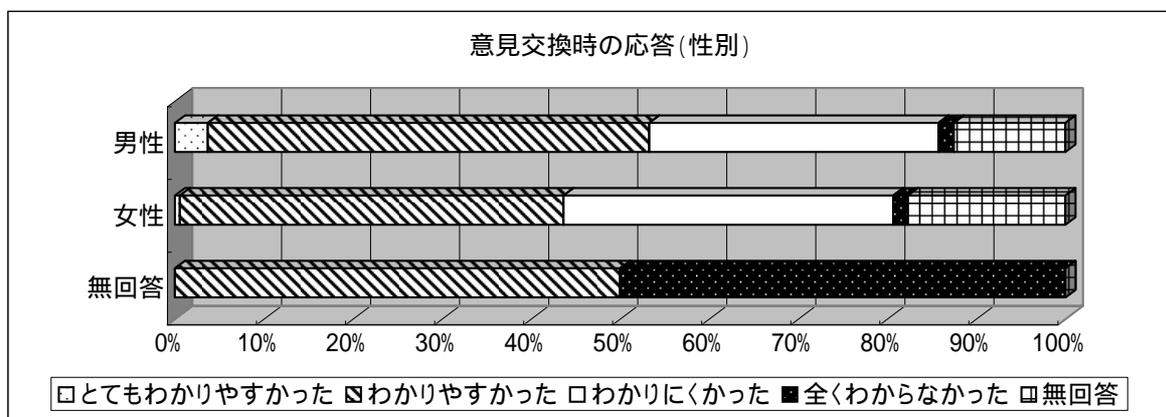
	とても適切だった	適切だった	あまり適切ではない	全く適切ではない	無回答	合計
男性	22	217	73	7	32	351
女性	7	112	33	2	27	181
無回答	0	1	0	1	0	2



パネルディスカッションの進め方については、男女とも6割以上の回答者が「適切だった」と回答。

意見交換時の応答×性別

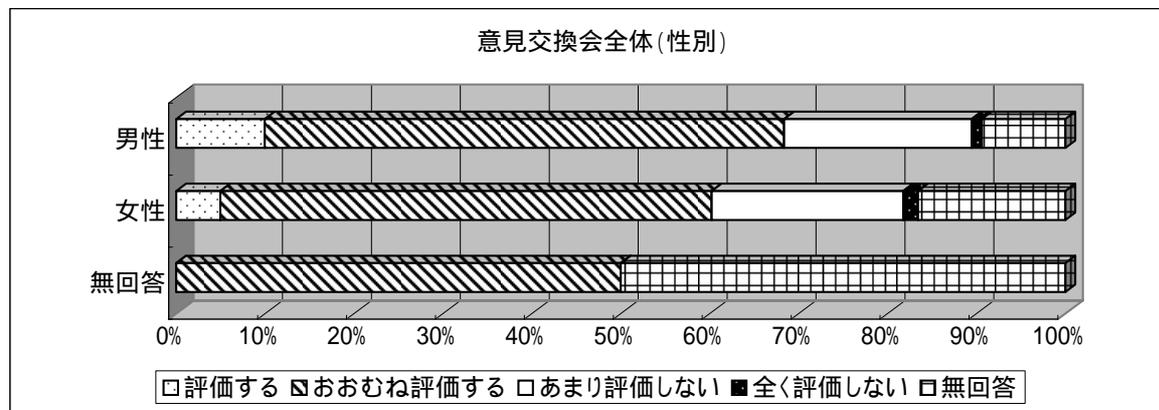
	とてもわかりやすかった	わかりやすかった	わかりにくかった	全くわからなかった	無回答	合計
男性	13	174	114	6	44	351
女性	1	78	67	3	32	181
無回答	0	1	0	1	0	2



意見交換時の応答については、男性の回答者のうち5割以上、女性の回答者のうち4割以上が「わかりやすかった」と回答。

意見交換会全体×性別

	評価する	おおむね評価する	あまり評価しない	全く評価しない	無回答	合計
男性	35	205	74	4	33	351
女性	9	100	39	3	30	181
無回答	0	1	0	0	1	2



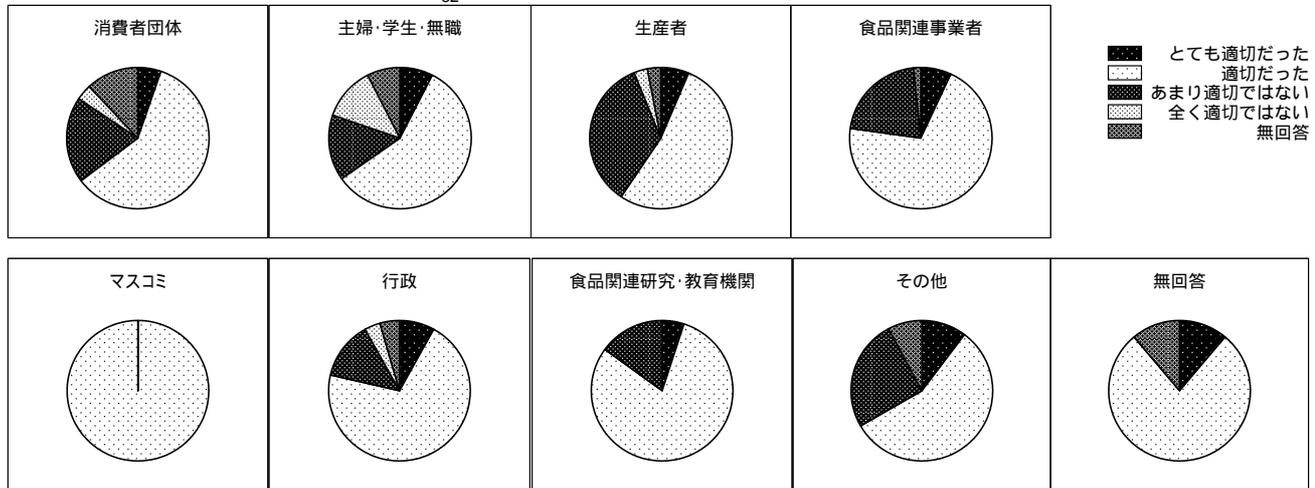
意見交換会全体については、男性の回答者のうち6割以上、女性の回答者のうち5割以上が「評価する」と回答。

問3

開催時期×職業

	消費者団体	主婦・学生・無職	生産者	食品関連事業者	マスコミ	行政	食品関連研究・教育機関	その他	無回答	合計
とても適切だった	6	5	2	8	0	11	1	4	1	38
適切だった	69	38	17	80	2	96	16	22	7	347
あまり適切ではない	23	10	11	24	0	18	3	10	0	99
全く適切ではない	4	8	1	0	0	5	0	0	0	18
無回答	14	5	1	2	0	6	0	3	1	32

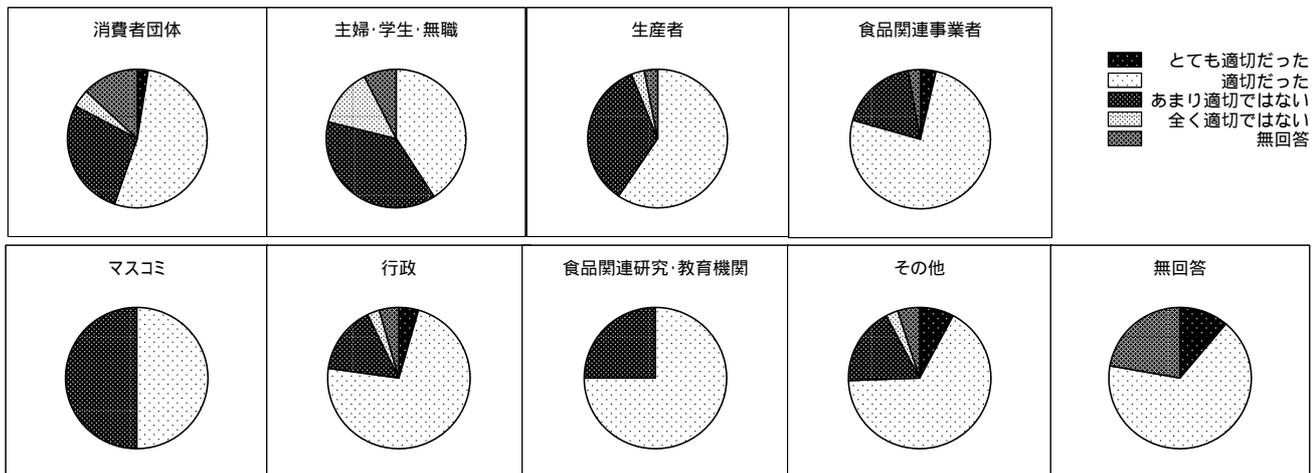
32



どの職業でも、半数以上が「適切だった」と回答。特に食品関連研究・教育機関の8割以上が「適切だった」と回答。反対に、生産者の約4割の人が「適切ではない」と回答。

開催方法×職業

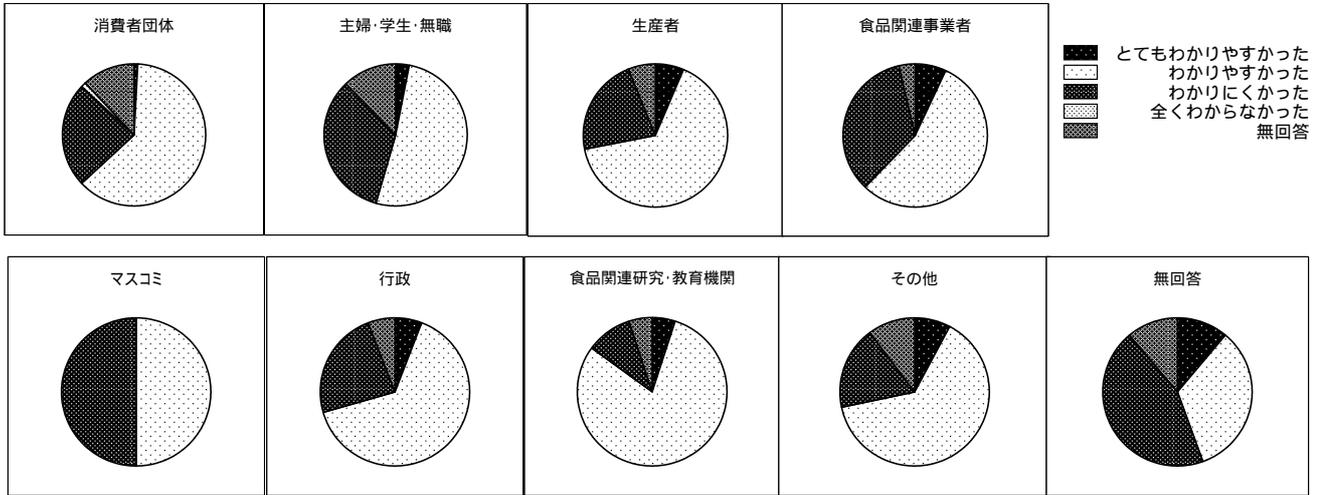
	消費者団体	主婦・学生・無職	生産者	食品関連事業者	マスコミ	行政	食品関連研究・教育機関	その他	無回答	合計
とても適切だった	3	0	0	4	0	6	0	3	1	17
適切だった	61	27	19	85	1	99	15	26	6	339
あまり適切ではない	32	25	11	20	1	21	5	7	0	122
全く適切ではない	5	9	1	0	0	4	0	1	0	20
無回答	15	5	1	3	0	6	0	2	2	34



主婦・学生・無職を除き半数以上が「適切だった」と回答。主婦・学生・無職では「適切ではない」という回答が「適切である」という回答を若干上回った。

配布資料×職業

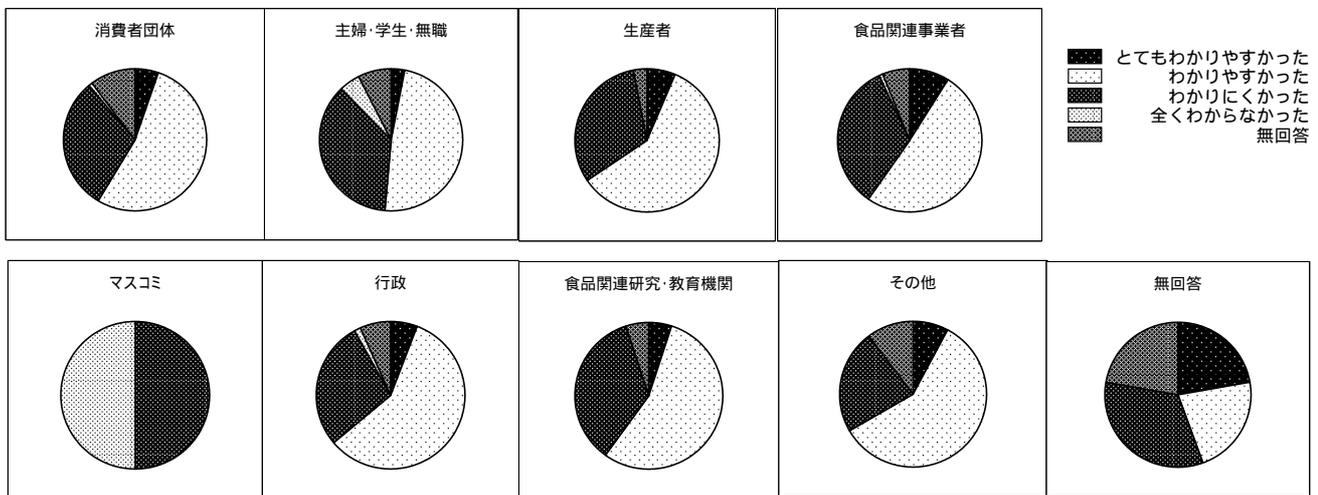
	消費者団体	主婦・学生・無職	生産者	食品関連事業者	マスコミ	行政	食品関連研究・教育機関	その他	無回答	合計
とてもわかりやすかった	1	2	2	8	0	8	1	3	1	26
わかりやすかった	72	34	21	63	1	88	16	25	3	323
わかりにくかった	28	22	7	39	1	32	2	7	4	142
全くわからなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
無回答	14	8	2	4	0	8	1	4	1	42



どの職業でも、おおむね半数以上が「わかりやすかった」と回答。主婦・学生・無職および、食品関連事業者は約3割が「わかりにくかった」と回答。

専門家による講演×職業

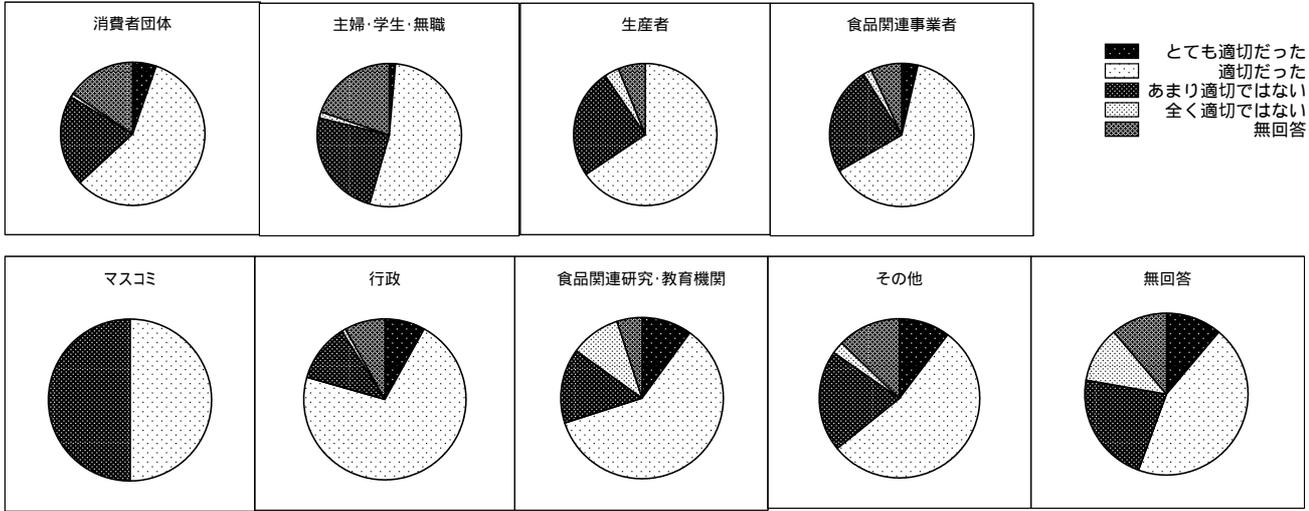
	消費者団体	主婦・学生・無職	生産者	食品関連事業者	マスコミ	行政	食品関連研究・教育機関	その他	無回答	合計
とてもわかりやすかった	6	2	2	10	0	8	1	3	2	34
わかりやすかった	62	32	19	58	0	79	11	23	2	286
わかりにくかった	35	24	10	38	1	38	7	9	3	165
全くわからなかった	1	3	0	1	1	2	0	0	0	8
無回答	12	5	1	7	0	9	1	4	2	41



マスコミと無回答者を除き、半数以上が「わかりやすかった」と回答。また、約3割が「わかりにくかった」と回答。

パネルディスカッションの進め方

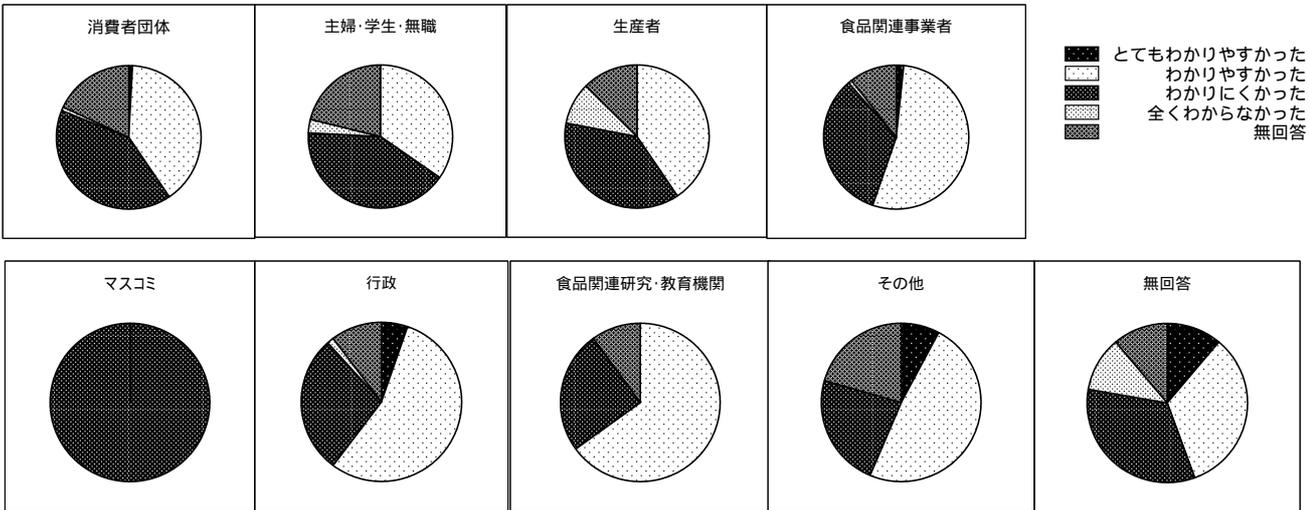
	消費者団体	主婦・学生・無職	生産者	食品関連事業者	マスコミ	行政	食品関連研究・教育機関	その他	無回答	合計
とても適切だった	6	1	0	4	0	11	2	4	1	29
適切だった	67	35	21	72	1	97	12	21	4	330
あまり適切ではない	24	16	8	28	1	16	3	8	2	106
全く適切ではない	1	1	1	2	0	1	2	1	1	10
無回答	18	13	2	8	0	11	1	5	1	59



どの職業でも、6割近くが「適切だった」と回答。また、主婦・学生・無職及び生産者、食品関連事業者3割弱の回答者が「適切ではない」と回答。

意見交換会時の応答

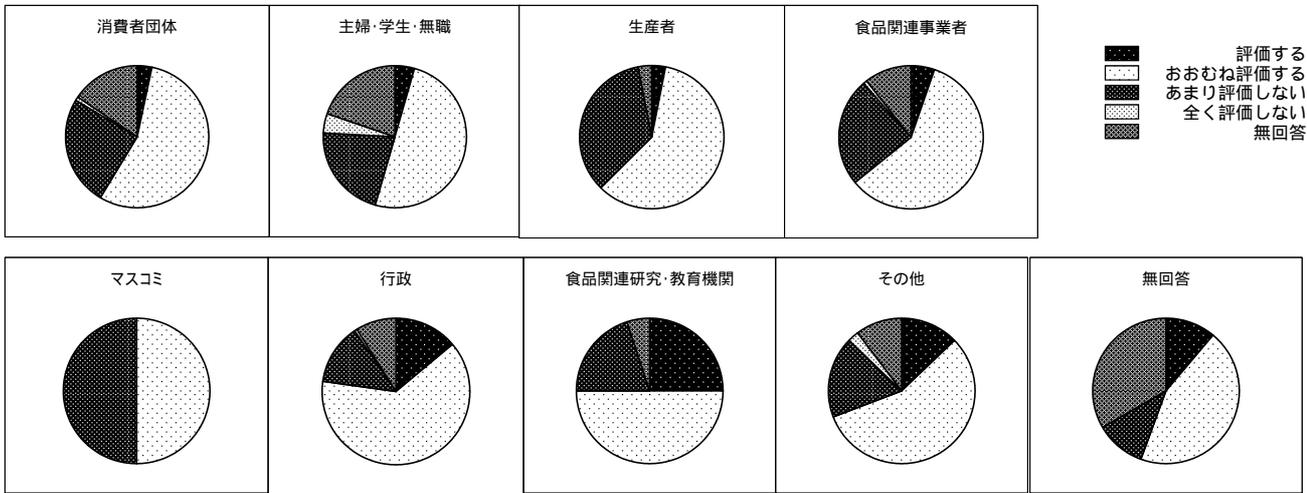
	消費者団体	主婦・学生・無職	生産者	食品関連事業者	マスコミ	行政	食品関連研究・教育機関	その他	無回答	合計
とてもわかりやすかった	1	0	0	2	0	7	0	3	1	14
わかりやすかった	46	23	13	61	0	75	13	19	3	253
わかりにくかった	47	27	12	38	2	38	5	9	3	181
全くわからなかった	1	2	3	1	0	2	0	0	1	10
無回答	21	14	4	12	0	14	2	8	1	76



消費者団体、主婦学生無職、生産者で「わかりやすかった」と「わかりにくかった」とほぼ半数ずつ回答が分かれた。食品関連事業者、行政、食品関連研究・教育機関、その他では「わかりやすかった」との回答が5割を超えた。

意見交換会全体 × 職業

	消費者団体	主婦・学生・無職	生産者	食品関連事業者	マスコミ	行政	食品関連研究・教育機関	その他	無回答	合計
評価する	4	3	1	6	0	19	5	5	1	44
おおむね評価する	64	33	19	67	1	86	10	22	4	306
あまり評価しない	29	14	11	28	1	18	4	7	1	113
全く評価しない	1	3	0	1	0	1	0	1	0	7
無回答	18	13	1	12	0	12	1	4	3	64



どの職業でも、半数以上が「評価する」と回答。食品関連研究・教育機関の約3/4が「評価する」と回答。生産者は、4割弱が「評価しない」と回答。

「食品に関するリスクコミュニケーション
- 米国・カナダ産牛肉等に係る食品健康影響評価案に
関する意見交換会 -」

アンケート「ご意見・ご質問」(自由回答)

*参加者アンケートの中から自由回答部分である「ご意見・ご質問」に記入された意見等について、個人に関する内容を除き、原則、原文を掲載しています。

【目次】

札幌会場	平成17年11月14日(月)・・・・・・・・・・	1
大阪会場	平成17年11月15日(火)・・・・・・・・・・	3
仙台会場	平成17年11月16日(水)・・・・・・・・・・	7
福岡会場	平成17年11月17日(木)・・・・・・・・・・	9
広島会場	平成17年11月18日(金)・・・・・・・・・・	11
名古屋会場	平成17年11月21日(月)・・・・・・・・・・	13
東京会場	平成17年11月22日(火)・・・・・・・・・・	17

札幌会場1 / 2

1	<p>パネリスト(さん・ さん・ さん)からの質問は、まさに私も聞きたかった質問ばかりで、それに対する解答を期待していましたが、質問が先に続けてなされたせいか、国(農林水産省・厚生労働省)からの答えはあいまいで、的を得ていなかったように思いました。一方的に言いたい事だけを説明し、肝心なことには答えてくれないようでした。(特に は話し方も聞き取りにくかったです。) さんの解答が一番わかりやすかったです。たとえば さんの質問にあった「輸出プログラムの遵守」についても何も触れられず、どうしたものかと思っていたら、会場参加者からの質問で、ふたり目の方が、そこをズバッと言ってくださったので、たいへん良かったと思います。(でも、結局、 さんは一生懸命答えてくれましたが、国からの答えはよくわからなかったです。ただ、今回、はじめてこのような会を知り、はじめて参加してみて、一般参加者(国民)にも、質問や意見を言える機会を設けてくださることは、たいへん良い事だと思いました。これを国がどう生かしてくれるかが問題ですが。</p>
2	<p>質問の意図をくんだ回答が少なく、分かりにくかった。</p>
3	<p>答申内容の説明など、説明の仕方について、わかりやすく行おうとの努力が感じられたが、なお一層の改善が必要なのではないか。説明内容の正確さに厳密なため、全体としてどうなのかという部分がおろそかになる場合があったのではないか。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりがなかった ・初めから両省のストーリー(輸入ありき)が決まっているように感じた。
5	<p>会場全体がもりあがらなかった。わかりにくい表現や言葉使いが多かった。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・国の担当官の答えが質問に対する具体的な答えになっていない。 ・答申案の付帯事項にSRM除去についてはリスク評価できていないとなっているのに、SRM除去を前提とした輸入再開はおかしい。
7	<p>初めてパネルディスカッションという形を体験しました。わかりやすくして良いと思いました。(各立場で発言して)</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと一般参加者からの意見を聞く時間をとってほしかった。 ・輸出元のデータが少ない上に、そのデータを頼りにした答申は不安。
9	<p>1)コーディネーターの進行が不手際 2)農水省担当官の答弁不適當、不明 3)最大のポイントは、輸出プログラムの適切なかつ有効な監視システムをどうするか。 この点の行政側の対応は全く不十分。外交分野も含め縦割行政。</p>
10	<p>早く、自己責任で選択できる様にしてほしい。アメリカ産の牛肉が食べたい!</p>
11	<p>このリスクコミュニケーションとメールだけで幅広く国民の意見を聞いているとは考えづらい</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・食品安全委員会といえども、「プリオン」のリスクについては、不明な点を多々抱えてるのだということだけは、理解が深まった。 ・アメリカ、カナダの検査・処理過程担当、チェックを行っているUSDAの担当者等が、実際に行動しているビジュアルを混じえた解説がもっとあった方が良かった。
13	<p>もし輸入されることになった時、外食産業、加工食品等の表示はどの様に考えているのでしょうか?消費者にとってはぜひ選択できる様にしたい事です!!</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションの進め方が悪く、議論が何一つされなかった。 ・意見交換会ではなく、質問会及び農水・厚生省の説明会の様。(説明がカンケツでない) ・賛成はしないが、外食代表(JEF)の人が唯一、自分の意見を(輸入早期再開)述べていたと思う。まとめがないままパネルディスカッションが終わった。(コーディネーターに能力なし!)
15	<p>米国、カナダの輸出プログラムが守られているかを担保するのは、話を聞いていると輸出国にまかせている。国内では消費者及び生産者がおおく心配している現状であるのが、十分な予算も確保されていないと思う。</p>
16	<p>BSE罹患牛に関する不安が一層増大されて来た。農水省係官が科学的体験を持った専門官とは全く思えない。即ち、SRMの完全除去牛の臓と称しているが、BSE牛の罹患の原因の一つと称されていることを省内で知りながら事が重大化して初めて重い腰を上げて消費者に知らされているが、飼料会社の保有量がなくなると迄は、出来るだけ与えないようにといった国民不在政策。それを(牛肉)販売する小売業者、外食産業が一方的な供給には、極めて不安である。</p>

札幌会場2 / 2

17	今回の意見交換会は大人の方から見た意見交換であり、大人にはわかりやすいと思います。けど、子供（小、中学生）には、わかりづらいと思います。TV、マスコミetcで、BSEについて流れているが中、” どうして牛肉は食べられないの ” と聞かれたときに、ただ ” 牛に病気があるから食べられない ” だけでは、子供達に説明できないと思います。できればこのようなことを子供達にもわかりやすい意見交換会を開いてほしいと思います。
18	昨今、認知症の人や神経障害の人が増加している様ですが、牛肉の多量摂取と関係がないのか、不安です。BSEの発生をなくし、北海道の生産者などが安心して供給できるシステムの努力をお願い致します。米国、カナダ産牛は、私は食べたいと思いませんが、子供は、焼肉、牛丼が食べたいといい、外食もします。将来の健康に心配しております。
19	英国で発生してからすでに19年が経ち、その中では日本は何の措置もしていない。日本が発生し、米国も発生し、その時の対応は全て事後措置にすぎない。米の肉を輸入禁止してからまだ2ヶ年しか経っていないのに、早くも開禁されるのはいかがなものかと思う。輸入しないと国際情勢があやういのも分からないわけではないが。資料が揃わなくて遅くなったと云ったが、もっと時間をかけて検討しても良かったのではないか。
20	質問したかったけれど直接関係ないので遠慮した質問 1. と殺法の改善はないのか。骨ずいが危険なら、骨を傷つけないような屠殺解体法がある。 2. BSEの原因として、代用乳はどうか。イタリアミラノで作られた油脂を使い、高崎の工場で作ったのが危ないというが、代用乳の調査は。 全体に説明も質問も冗長なところあり、もっと短くすればいろいろな質問が出たのではないか。
21	講演での さんのお話しでは、パネルディスカッションで さんの言っていたようにプログラムの遵守されているという原則を元にとりいう事が非常に不明確で不安になりました。パネルディスカッションの中での行政からの解答については本当に、この案で大丈夫と判断しているのか・・・？でした。意見についてはパブリックコメントを提出します。
22	結論が出てからのリスクコミュニケーションでは効果がない。本当に国民の声が聞きたいのか疑問。確認、理解等十分な時間をかけるべきで、見切りは社としての結論は疑いというべきではないか
23	全消費者に、もとわかりやすい説明が必要だと思えます。政府によると食品安全委員会で判断しますというコメントをよく聞きますが、委員会では調査結果等もっとオープンに発表し情報を提供してほしい。
24	時間が足りない
25	食に対するさまざまな問題は、日々生活している中で、次々と出てきて生きていく上で、とても大変なことになってきていると思います。そのひとつのBSEが、安易に許可されることなく、しっかりと管理をしていただくことを条件だと少し安心できるかなって思えます。世界では、トリインフルエンザ・ホルムアルデヒド・アスベスト、エイズなど、人にとっていろいろ危害があるものがのちのちに健康をおびやかすこともとりざたされてきていますが、BSEについても許可されたあとに、さまざまな問題が出てきては不安です。しっかりと「輸出プログラム遵守」を確約してほしいです。
26	参加者に具体的に理解をしてもらいたいという点がポイントとして明確ではなかったと思えます。
27	リスクコミュニケーションの開催は、札幌1箇所だけでなく、旭川、函館、釧路など、主要都市においても国の関係機関（農政事務所）が主催して開催するよう検討願いたい。 要望・意見の時間がとられなかったので用意していた発言内容を添付し提出いたします。 【添付】道としては、安全・安心な牛肉を消費者に供給するため、生産者や関係者に大変な手間とコストを掛けてもらい、飼料規制や肉骨粉の焼却、と畜場における全頭検査、特定危険部位の除去などを実施しており、それによって、消費者の信頼を得ているところです。こうした信頼を維持するため、輸入牛肉についても、国産牛肉と同等の安全対策が必要であると考えております。米国産牛肉の輸入を再開する場合には、リスク管理をする国において、国産牛肉と同等の安全性が確保されるよう万全を期して頂くとともに、消費者や生産者の皆さんの理解が得られるよう十分説明をして頂きたい。

大阪会場1 / 3

1	アメリカからの不安の声が多くあることをどの様にとらえているのか、食品安全委員会でどの様に処理されているのかを知りたかった。消費者の意見を取り上げて頂ける様願っています。
2	参加しても現在、自分もっている不安材料がまだ解決されず残っています。アメリカ牛の飼料・検査・又輸入された後にのこる流通の不透明 等々。もっと日本の消費者(買い手)の意見を大きく取り上げてほしいと思います。アメリカは売り手という立場であるにもかかわらず、日本の検査基準を低くしてまでも輸出しようとしているのはあまりにもガテンがいかない!
3	プレスリリースへ募集期間をもっとながく設定して欲しい。
4	食品安全委員会の独立性と世間へのピーアールを望む。
5	日本は米国、カナダとは牛の飼育もきめ細かいとは思われないので、数で比較してみるのには納得出来ない。20ヶ月以下の中もどこまで信じて良いか疑わしい。
6	参加して良かった。食の安全のやりとりだったという話がよかった。
7	消費者として、早く、米国産牛の輸入を再開してほしいです。全頭検査を実施しているのは日本だけです。科学的にも世界でのBSE対策に準拠して、美味しい牛肉を食べられるようにしてほしいです。米国産を輸入するなら、日本基準にあわせてほしいという意見が出ましたが、その差はない状態です。本当に消費者のことを考えるなら、いろんな過程で、値段がわざわざ上がってしまうようなことはやめて、早く、輸入再開をして下さい。消費者は、報道があるほど不安感をもっていません。安く、美味しいものを食べたいだけなのです。結論を早く出すことが、大切だと思います。宜しくお願いします。
8	BSEについてまだカイメイがされていない部分が多すぎる。でも牛肉の需要は根強いものがり世界的な検査基準を日本も適宜し、病気のカイメイが進む中で法改正を進めていく事が良いと思われま。国産牛の場合トレサビリティーのテッテイ的にすすめる事と同時に産地表示もテッテイする事によって消費者に食べる食べないの自己責任をまかせる事が良いのではないのでしょうか。
9	BSEに関して、あいまいな内容になり今年度末に輸入することを前提にした話になり、科学的に如何なるリスクがあるのか不明であり不安が残る他国の圧力をさげ、十分、研究されてから輸入すべきである。アメリカ牛の食材の輸入を急がせる企業の影響があるのではないかと疑うことすらある?国民の納得・理解を得ることが第一である。
10	Re openに関して非常に多くの人たちが不安に思っていることはわかったが、デリケートになりすぎてる部分があるのではと思う。消費者の買わないの判断の為に表示の徹底は必要だと思う。消費者団体の人たちはいろいろ調べてるなど、業界人としてまだまだと思った。
11	意見交換会での意見が答申にどのように反映されているのか明確に公表する必要がある。説明会に終わらせないでほしい。
12	最初の先生の資料を使った説明は、たいへんわかり易かったですが、実際の生活からは、離れているので分かりにくかったです。質疑応答での先生の回答がイメージしにくく理解するのに、かなりの知識が必要になると思いました。早く、健康に良く、体力づくりにとても良く、値段の安い肉が食されることを願います。
13	答申を受けた後の輸入再開までのプロセスなどについてももっと聞きたかった。すぐに輸入が再開されなかったのは、安全委員会ができたからで、安全委員会にもっとがんばっていただきたい。これで輸入が再開され、安全委員会が形骸化してしまう印象をもたれないようにしていただきたい。いつもお決まりの団体がお決まり発言をされるのに少しうざりしています。まげずに事業者の方も発言してほしい。
14	消費者の立場で参加されていた氏、水産関係の氏の意見は、私の意見に近いもので、とても不安を解消できるデータではなく、牛肉輸入再開にGoサインを出すことのできるものではないと思った。にも関わらず、農林水産省のさんの意見は再開ありきで話をされているので、話がかみあわず、質問に直接まっすぐに答えていなかったように思う。私は米国産牛肉を食べないだろうし、私のたてる献立にはいれない。「輸入は再開するべきではない!!」
15	輸入再開の説明をするための調査という印象を受けた。調査のためのデータの信頼性が低く、従って結果の信頼性も低いと思う。また、調査しなくても同じ結果を報告していたのでは?と疑わしい。輸入先が米国以外でも同じような状況だったのか?非常に政治的力が強いように思う。今日の意見交換会は「~だとすれば」「~だと思ふ」という言葉が多く、仮説と推測ばかりの会ぎという印象が強い。
16	そもそもリスク管理機関がどこまで米国、カナダの輸出プログラムが実効性、遵守がされるかに対して、担保できるのかははっきりしない前提の上で、リスク評価を依頼することがナンセンス(無意味)と思われる。順序として、リスク管理機関として、どこまで実効性遵守させるかの施策をはっきりさせ、国民に明らかにしたうえで、リスク評価を依頼するべきだったと思います。食品安全委員会のリスク評価案は、極めて誠実にだされたものと思う。
17	消費者団体(女性)の方の反対意見ばかりで、輸入再開の賛成意見がほとんど出なかった。以前リスクコミュニケーションでも同じような状況で有ったと思う。リスクコミュニケーションのやり方に少し疑問を感じる。
18	全体に安全委員会・国は輸入再開へ、消費者・業者側はまだ検討が必要と判断がわかれていたように思うが、この会ぎの結果がどのように反映されるのかたのしみである。

大阪会場2 / 3

19	Q & A に対するの回答は言いわけにしか聞こえなかった。専門的な内容でなくもっと具体的な話が聞きたかった。特に加工品、調理品としての牛由来の商品に対してどの様な水際の対応が取られるのか、食品の表示についての事業者の徹底方法なども聞きたかった。アメリカに対しての評価が中心となるのはわかるが、日本として今後どの様に対応すべきかが次回聞いてみたい。今回は輸入再開に対しての国民への逃げ口上、口実としてのリスコミであったという感がある。
20	米国、カナダに関するデータの質・量とも不明な点が多いというなら質・量ともっと明らかにして、米国の実態をもっともっとあきらかにしたうえで、評価すべきことだと思う。
21	輸入再開か否かという前の大切な時期のセミナーの開催でたくさんの専門家の方たちの意見を聞かせて頂けたことをありがたく思います。海外で不透明なシステムの多い中、日本の食の安全性は責任感があるほうだと思います。ありがとうございました。
22	特定団体がよくやる、風聞やうわさレベルの反対意見に、国や専門家はもっと論破してもらいたい。
23	この勉強会によって牛肉に対する、知識とレベルが上がりました。人間が生きる元は、食にあり、その食の事をもっと広く、深くPRと勉強会をやって頂きたい、と存じます。安心と安全そして、環境に、やさしい、食材を提供するよう、指導して頂きたい。以上、このような勉強会を数多く実施して頂きたいと存じます。
24	a.質問に対する回答がまったく適していない() b.わかりやすい説明() (要望) マスコミに対して、正確な情報をタイムリーに提供してほしい。不必要な日本牛の全頭検査に国民の税金を使うのはむだではないか。
25	食品安全委員会でリスク評価に関し審議していたのに、結局政治的圧力で輸入再開されようとしているの残念です。消費者としては国産牛を選択したいので食品表示が正しくされることを望みます。輸入牛が加工されたり、外食産業に出回るのが不安である。知らないところで輸入牛を食するキケンが恐ろしい!! 質問が一部団体に集中していた。何とかならないの!
26	牛肉の輸入禁止からずいぶん時間が経ち米国のBSEにおける牛肉の事情もずいぶんわかってきたように思います。飲食業界を中心に米国牛肉輸入解禁を求める声は多く、特に焼肉店は廃業される方も多く出る程、米国牛輸入禁止のダメージは大きいです。一部でも良いので一刻も早く米国牛輸入の解禁を求めます。
27	農水・厚労両省と政府本体は安心の基準を委員会におしつけ、その結果について責任をとろうとはしていないように思う。科学的評価は委員会、政治責任は行政・立法が担うべきであるが、委員会からOKしたから国として認めたとしてはいいないか。
28	食品安全委員会の答申の条件が日本と違うので安全性が気になる。 輸入牛肉の検査の確認がほしい。 食品安全委員会を信頼していたが、政策で牛肉輸入が再開されている感じを受ける、心配になる。 輸入牛肉を日本で検査してほしい。 自家配合(飼料)気になる。
29	意見交換会では「輸入反対」の意見が多いですが、今回の評価に関する意見を述べます。今回、この会に参加して、お話を伺い、健康影響評価は妥当と考えます。いろいろ条件制約はありますが、20ヶ月令以下でSRMの除去と、さらに付け加えられた付帯事項が守られるのであれば、牛肉を食べることでvCJDに感染・発症するリスクはほぼ0と考えてよいと思います。一つ要望を伝えさせていただければ、「表示」を明確にしてもらいたいと思います。加工食品、外食を含め、全てに「表示」し、消費者に選択できるようにしていただきたいと思います。
30	なかなか私たちが思うような内容は内閣府食品安全委員会に伝わらないなあ
31	・牛肉(筋肉)の食するリスクではなく、牛肉を食べれば危険であるようなことになっている。 ・日本と米国の管理の基準が違うのか問題か?
32	リスク分析の考え方がまだ一般の人に理解されていないと感じる。BSEの様に極めてリスクが低いものにコストをかけすぎるのではなく、カビ毒や微生物汚染など重要な課題にリスク分析を行うべき。
33	今回、会場から出た意見の全てが今回の評価に対する不安にもとづくものだったと思うし、私も同感です。このリスコミの内容が今後、どのように反映されていくのか、注目していきたいと思ひますし、これで輸入再開ということになれば、この会ギは何だったのかということになります。今後とも慎重な議論を重ねていただきたいと思ひます。
34	公平に意見交換したい。今回のテーマ内容にそって、すすめてほしかった。又、発言者も伝聞ではなく、事実にもとづいて意見を言うのに促してほしい。発言出来ない人もいた。
35	質問・意見に感情的なものが多く、私は質問したいことができなかつた。私は、4500頭のサンプリングの詳細・全米における検査場の数、そのうち何ヶ所のものか・州はどこか など、を聞きたかつた。その上で自分として今回の案を検討したかつた。意見交換会は不満が残つた。
36	パネラーの方々の意見には賛同します。消費者としては輸入再開は不安です。食品安全委員会の役割については大いに期待するものがあります。結論としては、科学的な評価のみでいいのではないかと感じています。

大阪会場3 / 3

37	意見交換の時間の保障をお願いします。そのためのリスクコミュニケーションであると思います。十分な論ギにはならなかったと感じます。
38	これから何百年も牛肉は人間にとって大事な食料になっていくと思います。プリオンの実態がわからない今、将来の事を考慮にいて今しなければならぬ事を時間とお金をかけてじっくりとりこんでほしいと思います。
39	コーディネーターは(辛いとは思いますが)コーディネーター役に徹するべきではなかったかと思ひます。きわめてリスクの小さい要因に対してこれだけ議論がヒートアップする背景(日米外交に対する不信感等)を理解して厚労・農水他各省庁は答申を受けとめていただきたいです。 喫煙コーナーの設置場所についてご考願ひします。国関係の会議において、会議場のすぐ外が喫煙場所となっているために嫌煙者が煙から逃げられない場合がたびたびあります。
40	科学的な評価というのは難しいものであるし、一般の人にそれを理解してもらうのも難しい。消費者団体の人たちには感情的になる人もいるので、こういった会は難しいと思う。科学的な評価を一般の人にもわかるようにしなければならぬし、この先輸入再開となっても、消費者が選択できるように加工品についてもされるべきだと思う。
41	・アメリカ産牛肉輸入再開の為の意見交換会なのですが、一部の 氏の説明の時、表記の三国以外に、オーストラリアとニュージーランドも共に表記して比べてほしかった。 ・私の個人の見解は、現在の全頭検査が出来ないかぎり、アメリカやカナダからの輸入は禁止。 ・農水省が合意しようとしている条件では安全確保は信じられない。
42	会場発言があらかじめ結論をもって科学的評価になじまない発言が続いていた。この場合は、リスク評価に関わる検討を目的としているので、そうした方向で論議をリードすべきであった。
43	アメリカの圧力に屈してほしくない。安全安心して食べられないと今回の話を聞いて感じた。いいわけにしか聞こえない。ずさんなアメリカがきちんとできるとは思えない。子供達に、今の消費者に対して、安全委員会はもっときちんと評価してほしい。今の時点では、あまりにも不安材料が多すぎます。現地点で、反対です。急いでほしくない。
44	理想と現実のギャップは大きいのではないかと思います。日本の様にしっかり監理されている飼育と、米国等の飼育の違いから無理が多いかと思うが安心と安全の為に双方共確実なチェックが出来る事が望ましいが。
45	今だに全頭検査が安全・安心の担保となっていると考える国民が多いのはFSCの説明不足。日本人に科学的な理解が出来るようにすべき。まず全頭検査を全面的に否定することからFSCと政府は行わなければならない。全頭検査が日本人から科学的思考をうばったと云える。FSCのリスコミはあくまで安心安全の科学的説明。日本のトレスピリティーはあくまでも食品の安心の為であるだけで安全の担保にはならないのに、生産者がさも安全の為に云っているのはさらに国民は混乱する。全頭検査とトレスピの食の安全の観点で取り上げるのは問題。
46	・時間が短い ・もっとあちこちで長期にわたって開催してほしい ・やっぱりアメリカの牛肉には、現時点ではあまりにも不安です。輸入はもっときちんと(アメリカ政府も内容も)してからしてほしい。
47	「そんなに心配するな」と言われても、こんな状況では心配するに決まっています。変異型ヤコブ病もまだ不明な部分がいっぱいあるのになぜこんなに急いで輸入再開しようとするのか、もっと、時間をかけて、考えてください。急いでの輸入再開は絶対やめてください!
48	評価している数字のバックグラウンドが日米で異なるのに、そのまま評価しているのはおかしい。数字のイミがわからない。意味不明です。

仙台会場1 / 2

1	BSEに対する米、加の管理処理体制多くの問題がある中で、今回の報告をまとめられたプリオン調査会の努力に対し、深く敬意を表します。会場でも申し上げましたが、結論は妥当と考えますが、そのためには報告書の内容を国民によく理解できるようにわかり易く説明する努力を一層続けてください。輸入是非かということにすぐ結び付けないで、上の手続をした上で、結論になるとよいと考えています。
2	有意義な会に参加出来たと思います。意見交換をして、結論が出たと言ったり、理解が深まったと言った方々は少ない印象ではありますが、一方的に決めて進めるというやり方ではなく、意見交換をし、考慮したり取り入れられたりされるのであれば、回数多くこのような機会を設けるべきと思います。ただ内容的に説明であれば、消費者の聞きたいことを説明出来る様な、消費者中心の進行でもよいと思います。
3	1、日本の対応 余りにも神経質ではないか、アメリカでは何億の人、渡米する日本人の多くが米産牛肉を食べている。 2、全頭検査の費用1.700~2.000億以上と聞いているが、アスベスト、鳥インフルエンザ、HIV難病対策の予算と比較すると、
4	消費する立場に立ったリスクコミュニケーションの内容を工夫してほしい
5	科学的同等性を厳密に評価するのは困難という結論では、アメリカ牛の輸入再開は速すぎると思います。まだまだ不安が残ります。
6	意見がきちんと反映される事が大切
7	時間が短かった。よく分からなかったというのが実感です。
8	リスコミの意見交換で、問題なのは各種団体等で結論を持って参加している人達が多く発言して、意見を広く聴く、交換する場として公平性に欠ける部分がある。あくまでも一般者を対象にして、意見交換を行ってほしい。各種団体等からの発言は以前に提出させて内容をチェックして行うべきと考えます。特別な人が長々と話をするのは公平性に欠ける。出所の明確でない情報に基づく意見は排除すべき。大きな誤解をまねく。
9	パネリストの方々や安全食品委員の方の発言で用語の不適切な発言がある。例えば食品を表すのに、と殺あるいはクロスとか、これはと畜と言うべき。危険部位と発言しているが正式には特定部位（法律用語）（と畜場法）である。危険部位と言うべきでない。
10	会場内が暑く寝たくなってしまった
11	参考資料3、p27下の表で使用されている分布表のA20~A50の頭数が少なすぎる。少なくとも万単位が必要ではないでしょうか。
12	時間ありません。もっと発言したかった。もともとBSEは効率優先の考えを農学に持ち込んだ結果であると思います。結論は2つの矛盾を含んで玉虫色のものであるといえます。しっかりして下さい。米の圧力にまけるな。
13	時間が短く遺憾下述べられず残念だった
14	最初は牛肉の輸入再開が前提にありそうな感じがする。人体・人命に関わる事項なのでもっと輸入再開については（慎重に）議論すべきである。
15	講演は、専門用語が多いのと、早口で聞き取れない部分があった。初めて説明をしてもらう人にとっては理解しにくいのではないかと感じた。講師の方がもごもとして何を言っているのかわからないところもあった。
16	数字のマジックのような意見ばかりで、不信感が強まったように感じる。特に難しい問題ばかりなので、専門家を信じることが出来ないが、今日の会で信じられるものが一つもなかった。将来のある身、子育て中の人が安心できるような調査、わかりやすい報告を望む。
17	アメリカ産牛肉輸入再開の前に不安をふっしょくするためのリスクコミュニケーションであったと思います。しかし、アメリカの輸出プログラムを守ればという条件つき、また楽観的な数置をうのみにしての結論は納得がいきません。現場で作業をする人がきちんと理解して作業するのかどうか、やっぱり不安です。クロイツフェルトヤコブ病には治療法が今のところありません。不幸な人を出さないようにそれを一番に考えていただきたいものだと思います。
18	早期輸入再開を希望します。

仙台会場2 / 2

19	米国で成長ホルモンを投与していることについてもっと慎重な検討が必要である。プリオンは感染して数年後発病して、人負は限られているが前立腺ガン、乳ガンは莫大な人数であり蓄増していることから、もう少し情報開示があってしかるべきである。
20	報導のあり方について考えたほうが良いと思う。カメラはやはり冒頭挨拶までとした方が良いと思う。あるTVは意見交換後半にレポート用のカメラをまわしていた。(しゃべりをとっていた)非常にモラルがないのではないかな。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にアンケートの調査結果等を知っているのでしょうか？消費者が望む状況をよく理解してほしい。 ・だれもが食品を選ぶ際の判断基準はすべて国の責任になる。しっかりしてほしい。安全な食品を食べ安心して暮らしたい。 ・牛たん専門店の方への回答が対応がひどかった。牛たんの量についてもしっかり話をすべき
22	不確実のデータの上に乗ってこの結論を出すのはまちがっていると思う。消費者に分かりやすい結論で納得できるものをぜひ示してほしい。信頼できないアメリカ・カナダ産牛肉の輸入はするべきではない！
23	食品安全委員会のリスク評価については理解できました。もう一度資料を読み直し理解を深めます。今後もこのような活動を行っていただきたい。
24	<p>食品安全に係る安全評価、国民の生命安全遵守の最重要なもの。しかも子孫存続に係るものである。これは食品化学に関する日本の総合科学技術力を問われるもので全世界が注目している。</p> <p>今回の結論は、いささか納得し難いものがある。科学分析の結論を下す場合(食品分析)は、定量的分析を重視してはならない。データが少ないとか、外国なので...という理由は意味がない。何故モデルを多く作って分析しないのだろうか。結局、役所からのpaperだけで机上討論だけで決めたのではないかと疑いたくなる。データの質・量とも確認するまで提供させ、自ら調査する努力に欠けた結論ではないのか？少なくとも量的な計算等がなければ無意味である。</p> <p>付帯事項は結論への安全弁としてつけ足したもので、科学性に欠ける。</p> <p>更に付帯事項が遵守されぬ場合、即輸入禁止ではない、内容次第というのも解せない。だからこそあいまいな結論は出して欲しくない。</p>
25	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仙台市を意見交換会に選んだ地域性も今後も続けて欲しい。 2. 生産者氏が冒頭に述べたもしBSE対策していない米・加産牛肉が混入した時、消費者の牛肉離れが再度起きて大打撃を受ける事を心配している。従って全頭検査で(日本・オーストラリア)市場の信頼をくずす様な背影を構正する事は米・加の圧力である。
26	今回のように、消費者や生産者・事業者の声(意見)を聞く場を設定していただいたという事は大変良いとは思いますが、聞くだけのパフォーマンスになってはいないでしょうか？食品安全委員会の結論の中での評価についても増々消費者としては不安が増長されました。米国・カナダ産の牛肉に対する対応の仕方、考え方に大きな差が生じている様に思います。政府が将来に渡って、国民の健康を守るのか、国際社会の中の面子を守るのか、もう少し慎重に対応、扱いをして頂きたいと思います。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・少ないデータ・不明点の多いデータ、・監理措置の遵守を前提にしての評価は大変難しい判断だったと思います。私達はそんな中で出された結論の輸入牛を食さなければならぬのでしょうか。リスクコミュニケーションと云われてもコミュニケーションでかかぬます。
28	食品安全委員会の答申内容では安全とは言いがたい。答申とうりの商品が手にはいらないければ意味がないからである。又、出生証明は10%くらいしかないのだから加工食品となって輸入した場合はそれ以外となる可能性が高いはずだ。この答申を輸入再開に利用するのは危険すぎるのではないかな。やっと牛肉の消費が戻ってきたのに消費が再び落ち込んだら、どう責任をとるのか？責任は大きいと思う。どんな肉が輸入されるのでしょうか。輸入プログラム通りのものが来るのですか。米国の処理業者の技術の問題や月齢の推定のわかりにくさの内部告発が日本輸出用の専用ラインはあるのでしょうか。国民が実際に見るプログラムも必要だと思います。オーストラリアを見習ってください。トレサビリティは今や責任であり、常識です。
29	BSEリスクの評価が20ヶ月齢以下及びSRM除去された牛肉のものになっているが、確かに、それに限定されたものの評価は理解できるが、消費者は、「北米の月齢判断基準があいまいであるため。必ずしも20ヶ月齢以下の牛肉のみが輸入されるとは限らないのではないかな」ということが危惧されるものの不安を抱えている。今回のリスコミは食品安全委員会主催という事で、あくまで、リスク評価でしかないが、消費者にとっては、北米の牛における飼料規制の甘さ、工場の交差汚染、サーベイランスの対象牛、どれ1つとってもかなりリスクは高いのではないかと逆に不安が大きくなるような情報だったように思う。又、日本向け輸出プログラムが本当に遵守されるのか疑問。

福岡会場1 / 2

1	一消費者として出席して感じたことは、100%安全なものは何もない。(食料でもその他のものでも)そのなかでカナダ、米国産の牛肉に関していうと、専門家の科学的見解と輸入される条件をふまえるとはほぼ安全であり早く輸入して安くおいしい牛肉を食べたいと思いました。一部このシステムが安全でないという方々の為に選択できる販売方法を確立してもらえればいいと思います。
2	数回の意見交換会が行われ、BSE、食品安全委員会の正しい内容と目的が理解されて来たと思う。マスコミも正しい報道になりつつある。
3	良い集りであったと思いますが、すでにもう決ったことを、国民に納得する様に説得されている気がする。日本の畜産のトレサビリティが確立したのに...何とも不思議な思いがのこる。国民の声を に意見を述べてほしい。ご苦労は充分理解ができません。今どこかでBSEが出たと聞いても消費者は少しもあわてません。 消費者は見えています。
4	輸入プログラムの国内規制と同等であって欲しい
5	・食品安全委員会の方々の苦労が少しわかったような気がした。 ・実際、輸入が始まったら査察の状況などを逐一報告、公表して欲しい。
6	20歳以上の月齢判定の根拠(成熟度)の米国資料のいいかげんさ。それをみとめた安全委員会に失望してます。
7	食品安全委員会にはくれぐれも、コミュニケーションを通じて国民にやさしくわかりやすい情報の提供を望みます。
8	国内に変異型クロイツフェルトヤコブ病が発生しない可能性はゼロではない。(輸入が再開された場合)これは薬害エイズ病に類似している点があるだろう。慎重な対応と責任をお願いしたい。
9	20か月未満という月齢判定はできるのかもしれないが、前提として、20か月未満の牛は確実に安全なのか？20か月未満が確実に安全なら、日本も20か月未満の牛の検査を止めても良いのではないか。それを現在も続けているということは、確実ではないからではないか。「20か月以内の牛は安全ですよ」と洗脳があって、「20か月以上の判定ができるので大丈夫です」と結論づけられても信用できない。20か月以内が解禁されていない段階で、米国からは30か月未満という声も聞かれはじめた。今度は「30か月以内の牛は安全」という洗脳がされるのか？「米国の牛肉の格付制度」で100%正確なのか。これが正確でないとすれば、判定が可能でなくなる。
10	それぞれの立場の方の意見が聞けて良かったがエゴが入っていて、納得いかない意見もあった。安全と安心は、セットでなくちゃいけないのか？安心は、消費者にゆだねるといふ欧米風に変化する、き路に、日本はあるのかもしれない。
11	BSEの全頭検査はやはり必要だとあらためて思いました。
12	コーディネーター 氏の進め方、まとめ方、一般の方へのかみくだき方が絶妙！！各生産者、消費者、チェーン協、学識者、行政など一併介してのパブコメは有意義、それぞれ思惑、気持ちが伝わる。
13	難しく理解しにくいです。わかりやすく説明を希望します。安全ですといわれても100%信用出来ない。
14	パネルディスカッションについては、それぞれの立場でご意見や発言があり、理解が進みました。
15	意見交換では活発な意見が出ていたので、よくわからない？と思い参加したのですが他の方々からも同じ意見がでて、少しは理解することができました。ただ、「- - リスクの同等性」- - 評価についての(案)を考える上で、これから先は、そのような展開になるのだろうという不安を取り除く上でもあわせて話されることが、大切だと思ったし、話してくださって、よりこの案について理解することができました。
16	ホームページなどから得られる資料以外のものもいただけたのは出る価値があったとは思いますが、結論は前提ありきで、その点に変化がなかったのが残念です。BSEやCJD(もしくはVCJD)に関するもっと詳しい情報、資料がほしかった。(自分でも本を読んだりして知識を得ていますが、個人で調べるのは限界があります)
17	リスクコミでの説明等がマスコミによく伝わってない。テレビでコメンテーターがあぶないような言いかたをしている。安心を得られない大きな原因となっている。(不安をあおっている)(今日も朝の番組で さんが言っていた)
18	管理側の返答に疑問。仮に輸入再開した場合、査察を行うなどの話をしておきながら、今後答申を受けた後のスケジュールについては、「まだ答申をもらっていない段階でこたえたと怒られる」などという。行政は常に先手を打って、物事を進めていることくらい消費者は知っており、こういう矛盾した受け答えが、不信を招いていると思った。
19	安全・安心・リスク、事ある毎に出てくる言葉にアレルギーがある。B.S.E、安全の度合が何%あるのか、今も納得出来ない。アメリカの事例を見て、安全・安心とは思へない。
20	熊本でも同じような会合があり出席したが、一、二回では不明な点も多々、色々の場所で説明会を開催してほしい。

福岡会場2 / 2

21	<p>・輸入禁止以来スーパー、百貨店等の肉売場を見ているが、不足になるはずですが、輸入禁止以前と変わっていません。もちろん、オーストラリア等から輸入があつてのことでしょうが、一般の国民にとっては需要と供給のバランスがとれていると思われま</p> <p>す。</p> <p>・今日の専門委の方から、アメリカ・カナダはずうと続けて食していると云われました。何も問題はないのではと云うことばがかかれて</p> <p>いるやに感じました。牛どん・レストランの要望と、アメリカからの要望に答えたとしか考えられない思いがいたしました。</p>
22	<p>BSEは検出されない方がいい？BSEの検査をしていない国はもちろんBSEが検出されていない。日本も検査しなくていいの</p> <p>か？BSEが発見されたからこそ安全な牛肉が消費されているのではないかと思う。消費者への意見を書きました。もう少し一般</p> <p>消費者が理解できるようにしたほうがいいのではないかと思います。</p>
23	<p>1. 農水省出身者が消費者(量販店)側の意見として行政の方向に合意するのは不自然。自由化を目途とした話がある。</p> <p>2. データ資料が「輸入ありき」のデータの様に感じる。米国、カナダの肉を輸入する為に国民に数値的な方法(確率)を提出し理</p> <p>解を求めている。</p>
24	<p>時間帯は13:30～16:30が望ましい</p>
25	<p>リスク評価の際の化学的評価をさらに国民(消費者、肉牛生産者等)に強く説明する必要性を感じる。国民の判断には感情が入っ</p> <p>ており、これを除却するのは難しいが、リスク管理機関は粘り強く対話することを望みます。私自身も細かな点で疑問が何点あり</p> <p>ます。今後も対話する機会がもたれることを望みます。</p>
26	<p>仮に日本向輸出プログラムが実行され、日本が査察をするときには、消費者を入れてはどうか。それをアピールすれば消費者の</p> <p>安心につながると考える。(食品安全モニター制度の活用)</p>
27	<p>この様な会に何度も出席させてもらい色々な点よりの興味をもって聞かせてもらい食に対する意識をもち意見を持つことが出来</p> <p>ています。新聞などの情報だけでは不安感をつのらせる記事などもあり私のみならず一般消費者は(科学的評価など理解できない</p> <p>人、入手することの出来ない人もあるはず)安心して良いことも出来にくいことになる。誰れもが興味をもち、わかり安い情報を入</p> <p>手出来るように一層の工夫をして下さい。一部の国民丈の会にならないことを希む。</p>
28	<p>講演者の選択ミスである。もっと順序だてた話がきちんとできる人を選ぶこと。</p>
29	<p>輸入が再開された場合、アメリカでの管理をどうするか。遵守状況が不安である。しっかり管理してほしい。それが消費者の切なる</p> <p>願いです。</p>
30	<p>安全なものを求めるにはコスト負担もなければならない。</p> <p>食料自給率(4割しかない)の現実を知るべき。</p> <p>畜産に伴う後始末については理解がない。本来は三セク対応が当然ではないのか。コストもかかる。</p> <p>役所間の調整がうまくゆかない。</p> <p>現場の正しい実態を理解してプレーキを踏んでもらわないと安全の為であっても、業界がつぶれて役割を果たす業界がなくな</p> <p>る。</p>
31	<p>大変むづかしい意見交換会だった</p>
32	<p>様々な立場の人が輸入再開という1つのことに対して様々な見解を持っている。でも、この様な見解は一つの方向にまとまるよう</p> <p>にしていかなければ、国民の牛肉に対する安心にはつながらないと思う。こうしたリスコミや研修会の場をたくさん作ってほしい。</p>
33	<p>現在、焼肉店を経営していますが、お客様が希望するタン、モツ類を出す事が出来なくてこまっています。又、一番大事なのは、</p> <p>国産、オーストラリア産牛肉、タン類の仕入れ価格の高騰と品物不足により、多くの焼肉店が倒産、廃業を余儀なくされています。</p> <p>一日も早く、お客様の希望に応じられる料理を出せるようにして欲しい。</p>
34	<p>・参加者との意見交換は、パネリストや行政担当者との1件1件のやり取りよりも、進行の方がいくつか関連する発言も求めて(促</p> <p>して)、一定にくりながら質疑応答なり、意見交換した方が、「会」の運営としては効率的だと思います。</p> <p>・管理機関の方で北米産牛肉輸入の方針が検討される際、リスク管理機関主催の意見交換会を改めて持ってほしいと思います。</p> <p>輸出プログラムの遵守について、管理機関としてどういう方法で担保するか国民に説明すべきだと思います。</p>

広島会場1 / 2

1	・意見交換の時間が少なすぎます。皆が意見を言う時間が必要と思います。参考資料2、P15企業の内部監査、及びUSAの監査の具体例を示してください。
2	意見交換の時間をもう少し長くしてほしい。
3	コーディネーターの方が、消費者の視点と同様のレベルで疑問点を掘り下げていただいたので、とても分かりやすかった。今後の検証(査察など)がとても重要だと思いました。
4	・意見交換の時間が若干少ないか。
5	パブリックコメントの内容の件数や、その意見を述べた人の立場を公表していただきたい。
6	食品安全委員会は食の安全あるいはリスクに関して産、官、学、消費者が情報を相方向に共有して信頼関係を築いていく重要な役割なので、その方向で努力してほしい。それには答申の作成と修正に意見が生かされる必要がある。科学的評価が信頼されるためには、リスク評価の根拠について、公開し、意見により修正していく必要がある。また、感染源についてプリオン調査会で検討すべきである。さらに今回の結論ならば、平成17年5月26日の審議を決定する際に出すべきであった。
7	意見交換会の時間が短過ぎる。1人2分の制約の中で、5人の方しか発言ができなかった。コミュニケーションになっていない。主催者側の意図(発言の機会をつぶす)が見え見えて大変がっかりした。コーディネーターの人选に誤りがあった。主催者側としては良。
8	イベント会社に委託されていると想像しますが、もう少し事前にマスメディアを使った参加者募集をされてはいかがでしょうか。私の読み方または見かたが悪いのか、テレビ及び新聞では一切開催についての広報は見えていません。そのせいか、私を含めて、スーツの似合う男性が多く、これでは全くと言っては失礼ですが、本来のリスクコミュニケーションの本筋(広く国民の意見を聞く)からはずれていると考えます。厳しい意見ですが、当初参加者が少ないと言って動員をかけたのは、開催の仕方及び広報等に問題があると言えるのではないのでしょうか。
9	米国产の輸入というプログラムに沿って、食品安全委員会は答申(今回は案)し、輸入を実行するために向けた形式的なリスクミであると思う。パブリックコメントの募集にしても同様で　　さんはとりまとめると言われたがリスク管理には全く活かされていない。食品安全委員会に対する不信感が益々増大した。
10	・リスク評価は極めて不正確なものであることがわかった。
11	・11月に　　の対談の中で牛肉輸入再開について触れられ、再開の方向が強くなった後の意見交換会は意味があるのか。 ・パネリストも輸入再開はどうしようもない、もう止めることはできないといった風調で、議論に重みが全くなかった。 ・この様な意見交換会さらに、大臣等のタウンミーティングなど活発に実施してもらいたい。
12	全頭検査の実行・輸入時の検査の徹底
13	質問に答える時間をもっと増やして下さい。輸入を再開すべきかどうか?の意見が多く、まとはずれで申し訳ございません。もっと、勉強すべきだと感じた。
14	・輸入される事は、現状では反対の気持ち強い。(納得できるだけのデータ等が公開されていないのではないか。) ・消費者としては、商品選択のために、表示の徹底をしていただきたい。(外食、そう材を含めて) ・米国、カナダでの監視体制の実効を希望します。
15	が、「食べるか食べないかは消費者が決めればよい」との言葉にもうれつに腹が立っている。無責任きわまりない。また、結論ありきの意見交換会は意味があるのか。消費者の代表を食品安全委員会に入れるべき。
16	安心と安全をしっかりと区別して話を進めて欲しい。安全については確認されていると思うので、国民に対し安心についてリスクミを進めて欲しい。このリスクミで少しでも安心感が増したか(不安がぬぐわれたか)疑問。参加者が少ないのが不満。コーディネーターの方はよくやられていたと思う。参加者でさえもあきらめ感があるのは残念。
17	リスクをへらす為にする事はコストが共うと思います。パネラーの方も発言されていました。全てのコストが一部に集中する事はありえないと思います。最終的には消費者の方にコストが掛かると思います。そのあたりまで今後は考えた方が良いのでは…。消費者団体の方の意見が多かったが、そのあたりは分かって言っているのか。
18	科学的に評価できないものに基づいた結論というものは考えられない。ただ単にアメリカからの輸入再開のための手続きにすぎないということがわかった。
19	・理解を得られる為にも、こうした機会を数多くもつべきである。 ・もう少し、具体的な説明が必要である。時間が少ないか。
20	議論が不十分。原因としては、リスク評価のための基礎データ等不十分な結果が不十分な案を作ったためと考える。

広島会場2 / 2

21	参加者の質疑、意見を述べる時間が少い。アメリカや業者の都合や考えより、国民の安全、安心を最優先すべき。(業界の都合と国民の不安…)
22	現在の評価法でUS産牛肉は、安全であると理解できるが、安心できないのはなぜだろうかと思う。全頭検査をしている日本の牛肉を輸入しないアメリカ側の考えを聞かせてもらいたい。
23	私は5/13と11/18の2回、広島会場に参加しましたが、輸入再開のための下準備としか思えなかったことが残念です。「100%安全という食品は無い」を前提とした行政は危険です。2001年に狂牛病が日本に発生してからの政府の対策は実に見事だったと安心しました。10月から全頭検査を行い、国民、消費者の不満、不安を取り除き現在に至っています。今では仔牛が生まれるとすぐ福島県にある家畜センターにファクスされ、登録耳環が届けられて、その牛が食べるエサ、譲渡先等が日々記録され、最後に肉になる時BSE検査を受けるようになっていきます。この制度は20ヶ月以下は大丈夫だからと手抜きをすべきではないと私は思います。アメリカの食肉団体も一部ですが、日本並みに全頭検査をした肉を輸出したいと言っているではありませんか。アメリカに輸出プログラムを守ってくれる保障は残念ながら少ないと思います。

名古屋会場1 / 1

1	もうすこし意見を聞く時間が欲しかった。オーストラリアの肉は大丈夫か？その根拠が欲しい。
2	アメリカでのBSE検査を誰がした方がよいのかというパネリストの意見については、第3者機関がよいと思うが、その点については回答がありませんでした。パブリックコメントへの意見については、国民に説明責任を果たして下さい。
3	こういう場で情報を得ることのできる消費者は、本当にわずかです。消費者が店頭で購入する際に何を頼ればよいのか、正しい情報がどれなのか、選択できるためには確かな情報が欲しいのです。日本のBSE対策が牛肉に対する信頼を得、利用回復につながったことをしっかり受けとめて下さい。せつかくのBSE政策が活かされることを望んでいます。この際、日本の牛肉利用がすすむことも大切だと思います。農水省は自給率を上げたいと言われてますよね。
4	アメリカ産牛肉が年内にも入っていないという報道がなされて、テレビ等のアンケートで、外食産業の前ではインタビューで「早く輸入して欲しい」となっていますが、アメリカの報道並びに21ヶ月以下の牛は全頭検査をしないというのを聞いて、スーパーの前では6割以上の方がアメリカ産牛肉を買わないと答えました。輸入に不安を持っているからだと思います。生協にはお店があります。店頭に並んだアメリカ産牛肉を、組合員(消費者)はやはり不安に思うと買わないと思います。人の目と化学(科学)の目の両方がないと消費者の安全・安心は得られないのでしょうか。ぜひ国が国民に説明・理解が得られるように食品安全委員会からも働きかけて下さい。
5	本当に消費者(国民)の事を考えてやっているのか。日本は輸入する側だからBSE検査した牛のみ輸入するべきで、日本でも20ヶ月以下はBSE検査を止めるなどもってのほかと思う。(現行は地域で全頭検査をしているが)
6	食品安全委員会と関係行政機関担当者のいいわけの会。議論をみちびき出している前提条件を米国が守れるかがチェックできるのか
7	輸入再開にあたっては、輸出プログラムが、確実に機能することが遵守されることを望む。それに対して政府は具体的な方策を提示すべきである。それなきままに輸入再開は認められない！！
8	・私達が生きていく上で食は大切なものです。最近では安心して食べる食品も少なくなり、心・体等おかしくなっている状況です。 ・BSE等は驚鐘として我々に知らせてくれていることだと思います。政治的なこともあると思いますが、民族の生命維持等を考えて正しい指導をしていただきたいと思います。
9	・参加者の意見を出せる時間が短かいと思った。 ・このまま牛肉が輸入されるのには、迄不安が残る。
10	回答は適確に簡明にすべき。
11	・今回の答申案は、あくまでも輸出プログラムを遵守された場合という仮定の上でのリスク評価であるので信頼性に欠く。 ・20ヶ月令以下の証明は、米国の現状では、トレーサビリティ制度もなく、無理なことと考える。尚、20ヶ月令以下なら安全だとは考えていません。理由、21ヶ月23ヶ月令でBSE発症例がある点、さらに、異常プリオンの動向は不明部分が多い。動物実験でSRM以外の箇所でも異常プリオンがみつかった例もある。 ・輸入を禁止(米国でBSE発生)以前に日本に輸入されていた牛肉及び内臓その加工品の扱いについて、不備な点が多い。現在も乾燥小腸・ブロス製品等が関税手続きをされ、出廻っている模様(財務省統計)03.12.24以前の牛肉及び内臓・加工品はBSE汚染は絶対はないと言えますか。03年12月厚労省は発生前輸入のものについてしっかり管理すべきだったのでは？何故今だに市場に出廻っているのか、放置している事は、疑問大です。 ・03.12.23以前に輸入の牛肉・由来加工品がBSEに汚染していないという保証はありますか？万が一BSE汚染牛肉・他製品が市場に出廻った可能性は？潜伏期間も加味して、今後、牛肉由来のCJDが発生した場合、責任は誰がとるのでしょう。(関係省庁の見解をお伺いしたい(回答を下さい))
12	とても勉強になりました。また参加したいです。
13	特になし
14	・前題による輸出証明プログラムは、いつ、日米同意されたのですか？
15	食品の安全は一応皆が求めているが、現状としては加工食品が又外食が増え、個人としてはたして真に求めているか疑問を感じる。 個人として、自らの食生活に責任をもつ 外食に傾くことは止めようがない今日、農水林省、厚労省で大量消費に対して、食品の管理を強く求めたい。
16	日本に準じた方法で生産した肉 この工程で出てくる骨・皮(異常プリオンが発生しない部位)を利用した(O.I.Eの基準にのった工程)蒸製骨粉、蒸製皮革粉等の輸入再開の目度は？(中国・韓国が主)

名古屋会場2 / 2

17	生産者や消費者、食肉流通業界、外食産業、政治のそれぞれの立場で当然自己の利益を追求するものだと感じます。それがお金なのか、家族の安全なのか、外交の取引材料なのか、各者によって異なるものだと思う。だから、それぞれの意見は平行線をたどってしまうのは仕方ないことでしょう。少なくとも誰かが得をすれば誰かが損をする。トータルイコールがこの世の法則であるならば、最大公約数でまとめるしかない。ここは、食品安全委員会に突走ってもらって、(政治や業界の圧力に負けず)多くの人が納得いく現状で考うる科学的な結論を出して欲しいものです。農水省の人は、もう少し語尾をわかりやすく、人を小馬鹿にしたような話し方はしないようにした方がいいと思う。
18	コミュニケーションは難しいですね。先生の講演を聞いたことがありますか。根気よくコミュニケーションを実施して下さい。手をあげる方は毎日同じ系統の方のような気がします。
19	米加産牛肉の輸入が再開された場合、牛肉の原産国表示を小売・卸・外食・中食などのすべての段階で法律で義務化するべきである。 今は、外食・中食においては原産国表示が義務化されていないので、消費者にとって判断する材料がない。早急に義務化して欲しい。 外食においては今も表示違反が多く(国産牛なのに和牛と表示など)あり、さらに中食においての表示はもっと違反の多いものである。消費者が誤認しているケースが多いというのが現実である。
20	前提とする検査、トレーサビリティ、目撃把握、飼育などが異なる中で、会場の質問とパネラーの発言とはかみ合っていない。説得力が委員会のレポートでも弱いのではないかな。
21	消費者にとりまったく解りにくい、行政側が、もっとマスコミ等を利用して説明をしっかりとしてほしいと思います。会場内の不安に対する意見に同意する事が多々ありました。農水側の説明は、何か逃げている気がしました。(説明が解りにくかったです)食品安全委員会に対しては良心的な面も感じられました。
22	最後のひと言が非常に長い方がいらしゃいました。時間の限度があるなら、会場者に守らせるだけでなく、パネリストにも守らせるべき。
23	外食産業の原料原産地表示も不加能との話なのに米国20ヶ令以下の牛やSRMのシヨ理がまちがえなく行われているか検証できるのか疑問
24	結論が、「～が前提」、「～を仮定」という形で非常にあいまい。評価結果についての意見を伺えるよい機会と思い参加させていただきましたが、参加して、より一層輸入禁止措置解除に反対する立場になりました。 人が牛を食べるといふ所から最近考えるようになり、まして、安全でもないというのであれば、なお牛を食べる必要はない、食べるべきではないと思います。外交問題ばかり考えての評価結果案だと思います。案を出す前にも大規模な意見交換会をしてほしい。もっと慎重に案を出してほしい。案の状態、予定の輸入再開時期を公表すべきでなかった。今までの全てが早急な輸入再開を前提としていて許しがたい。 輸入しなければ、牛の単価が高くなるうが、牛をいただいているのだからあたり前。高いのが嫌なら、食べるな！というのが普通では、リスクは、人が牛を食べるところから広がったと認識し、その点から考える時が来たのではないかな。牛を食べる文化の中にあたりまえに生きている現代人に牛を食べるなどというのはムリだから、そういう意味で日本の牛だけでよい。たしなむ程度の量にしておくべきだ。
25	・農林水産省の さんのお話は非常に難解。しかも、同じ答弁の繰り返しはどうかと思う。質問の内容に応じて多様な切口の説明があると良かった。そもそも、「100%安全なもの・食品はない」のだから、低リスクと判断すればもう良いではないか、という姿勢を感じます。何が安全か「自分で選べ考える」と言われますが、大多数の消費者は、安いほうを買うでしょう。それで、日本の「食」「健康」は将来的にも大丈夫なのではないか。上記の「テーマ」のように食についての問題は、年々増すばかりです。平和に安心して暮らせる日常生活を応援して下さい。国家であるよう願います。
26	さんの意見に同感しました。まるで今回のリスコムはアメリカのBSE対策の批判的、国民に不安感を与えるようなものだった。何度もしリスコムにでましたが、一番「意味」がなかった。
27	・全面的輸入再開を望む ・食に安全なものはない。従って、何で牛肉だけこれだけ取り上げられるか理解できない。「米」「野菜」「魚」でも問題はある。 ・国益が優先されるべきだ。- 国際基準を守れ! ・最後は消費者の判断にまかせるべきだ。
28	BSEの安全策はフードバンの徹底とSRMの除去で充て足りています。日本個有のスタンダードというのは明確な根拠はない。WTOの通商上からも、日本の食料自給率40%という現状から、早期にOIEの基準に合わせるべきであります。
29	100%安全な食品が無い現状において、BSE以上にリスクの高い農薬、汚染物質等をさしおいて、BSE問題を大きく取り上げる今回のリスコムコミュニケーションに大きな問題がある。
30	国産と米国産もリスクは目くそ・鼻くその戦いだと思います。リスクは非常に少なく、問題視するのはおかしい。他にタバコは害がある率を表示しているが個人の責任で吸っているのだから、個人の責任で消費者が選べばよいと思います。吉野家1社でテスト販売すれば良いと思います。社会不安を発生防止の為、スーパーでの販売はやめた方がいいと思います。

名古屋会場3 / 3

31	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・カナダ現況が不明な点が多いデータと、輸入プログラムが守られたらという前提があり、これから何がおこるかかわからない状況だということは、理解できました。(あまりに、絵にかいたモチ状況です！) ・政府は、リスクは小さいから、大丈夫ですとおっしゃいますが、BSEの根絶はあまり、考えてみえないように感じます。 ・サーベランスであれば、ムサクイの方がよいと思います。 ・吉野家さんの工場は大丈夫かもしれないけれど、6千のとチク場をだれが検査するのか、だれが情報発信するのか、非常に不安です。 ・だれかがギセイになったら、政策がとられると言う、日本政府のあり方を考えていただきたい。最終的には自己責任にしないでほしい。 ・ どうして、いつも さんは発言できるのですか？
32	<ul style="list-style-type: none"> ・まず米国牛肉輸入再開ありき、の結論に向けて、全ての論議がされているようで、不快です。 ・本日の意見交換会も、パネルディスカッションにしないで、もっと多くの意見を聞くと言う意味で、もっと会場からの意見を聞く時間をとるようにしてほしい。 ・食品安全委員会の 先生のお話は、とてもわかりやすかった。なぜ、私が、米牛の輸入再開に反対しなければいけないか、がよく説明できる意見であった。
33	<p>答申の見直しも考えられるという 先生の御講演をおききまして今日ここへ参加して本当によかったと思いました。 マスコミでは12月輸入再開となかされていますので。常々食品安全委員会は「消費者への食の安全に軸足を置いている」とご発言がありましたが、実感いたしました。</p> <p>意見交換を多くしたいという司会者の「すすめ方」が全くそうではなく、わずかの人の発言で終わってしまい、不満が残りました。(しかも途中から意図的であった)が、大阪リスコミよりカイゼンされていたと思います。</p>
34	意見交換の時間が短い
35	20ヶ月齢、30ヶ月齢で安全という前にBSEを出さない努力をアメリカに求めるべき。
36	日本と米国・カナダと全く異なる制度で行われている事に対して、基準をそろえると云事は、どちらかがゆずらない限り不可能だと思います。日本が、米国の云いなりにならない事を最低限願っています。私達の団体も、云見書を出していますので、出された云見がとり上げられて、検討材料になる事をねがっています。
37	<ul style="list-style-type: none"> ・前定条件での評価はなっとくできない。データをそろえ評価するべきと思う。ゆ入を急いで再開する必要はない。今のままならやはりゆ入再開には反対です。 ・検査のこと飼料のこと不安だらけです。 ・米国のチェックはどうされますか具体化はまだでしょうか…
38	<p>氏、 氏、 氏の熱がすごかったと思う。厚生労働省、農林水産省のみなさんは安いお肉など食べないでいられるのでは…。皆さんは牛を育てたり少し体験されたら冷たい(?)コメントもなくなるのでは。ファーストフードを食べることも大丈夫なのか？目の前のデータだけが仕事ではないと思います。未来の健康なこどものためにたてになって欲しいです。命を守る仕事をして下さい。お願いします。</p>
39	牛肉の輸入再開を早く実現して欲しい。食べる食べないは個人の自由であり、選択は自由であると思う。
40	食品安全委員会の牛肉リスク評価結果を聞き、知ることができた。アメリカ・カナダの牛肉は安全という認識は深まらなかった。20ヶ月令以下の牛肉を肉をみてわかるの？という疑問がいぜんとして残る。
41	食品のリスクは消費者として負うことは理解しています。リスクの減を願っています。意見交換会で行政の回答には少々不満がのこりました。あくまで(案)としてこの場がセットされたと思います。消費者(くらしをしている一主婦として)が安心して暮らしができることを前提にこういう交換会が各地で開かれることを望みます。この答申案を解説していただいた 先生の時間ももっとあるといい。
42	意見交換の中で、応答がよくわからないのが農水省です。表示の意味を決めるのは消費者です。忘れていませんか。全頭検査を最初に施策としてとったのは、どこでしょう。誰がやったのですか。今さら、米・加は違うといっても、わかりにくいのです。だから、評価がいるのです。世界の基準を今さら言われても、「全頭検査」が走っている日本をどうするのですか。ここが、一番大切なところ。 先生の説明はとてもよく理解できました。
43	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと早目の計画で出してほしい。 ・農水省など質問の意味を連れてとらえていました。 ・SRMが飼料として使われている事に大きなおどろきです。ここからの交差汚染が大変心配です。
44	食品安全委員会の答申(案)から、マスコミで報道されているような、年内の輸入開始が導き出されるとしたら、全く納得できない。また、付帯事項に書かれている事項を、管理省庁がいかにか管理していくかが、国民にきちんと伝えられることを望んでいます。意見交換、パブコメが、国民の意見を聞いたという単なるアリバイ作りになたないよう望みます。
45	各立場の人々の意見の違いがきわだって大変むづかしい事で委員会の先生と、外圧を感じる農水省との公の安全は各人判断する事だと思えます。

名古屋会場4 / 4

46	内容は、おおむね理解できたつもりですが、仮に輸入再開になった場合、一般国民(消費者)にどのように納得してもらえるのか内容が非常にわかりにくいと思います。個人的には輸入再開はやむを得ないと思いますが、万一、再開により、国民でBSEの人への発症が確認された場合食品安全委員会の信頼は大きく失われる事になり、その事が非常に心配です。(PS.どのような形になっても、国内でのトレーサビリティは絶対に維持してほしいです)
47	食品安全委員会の答申については、かなり理解が進んだと思います。パネラーの方がおっしゃっていましたが、本当に良心的だと思いました。 やはり前提条件が守られるかの検証が、1人1人の消費者にきちんと理解されないと、心の不安を取りのぞくのは、むずかしいと思いました。
48	今回はこのような場を設けていただきありがとうございます。今度は東海農林局レベルでもあるといいな。ともかく、国民の論議をおこすことが大切と思っています。
49	時間的制約があり、会場からの意見がなかなか上がらなかったのが残念。意見交換はより時間がほしい。資料は詳しくて分かりやすく良かった。リスクコミュニケーションは良い取り組みだが、関心の高い人々いしか認識されないのではないかという疑問が残る。国民に広く知らせられるような広報が必要なのではないか。牛肉を食べる時の安全性についてより突っ込んだ発表がほしかった。
50	科学的なリスク評価の同等性に疑問を感じた。だったら、した上でというような仮定からしか判断できない。もっとアメリカの実情、輸入するにあたってはそのプログラム完成がどれだけの日数がかかり、検証にかかる日数、整ったうえでの国民への意見を広く聞くという手順が違っているのでは。管理機関は農水・厚労にうつるわけですから、責任は国民ではなく、政府機関になる事を重く受け止めて下さい。
51	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のBSEの20頭のうち健康牛が多いと思いますので、へたり牛のみ行うアメリカ、カナダは問題。 ・日本の全頭検査SRM除去は胸をはって誉めるべきです。 ・結論のむじゅんは今日出席しても理解できません。 ・米・カナダの牛肉再開の結論は早すぎます。何のためのプリオン調査会、安全食品委員会かわかりません。日本の7割が輸入反対しています。農水省厚労省はどういうリスク管理をするのでしょうか、責任のなすりつけ合いのように感じます。エイズやアスベストの二の舞にならないように、考えてほしいと思います。BSEの原因究明はまだされていません
52	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3の44コマ目(結論のために)の題がおかしいと思う。生体レベルであれば、食肉レベルの解説をつける必要があるし「結論のために」全体を表現しているのであれば「生体牛レベル」が不要。 ・本資料、資料3の24コマ目(交差汚染の流行イメージ)は一般的な説明なのか全国、カナダの想定イメージなのか判りづらいので補足の説明が必要と思う。(本報告書にも必要です)

1	日本の安全安心を米、加においてもそのポリシーに従うことなく適用することが重要
2	1回の発言(2分間)を守って欲しい。肥料についてはいつ議論になるのか。副産物に目を向けるのが遅い。何回か参加しているが同じ人ばかり発言している。意見交換になっていないのではないかと。意見交換というより、国民の意見を聞いた事実が欲しいと思えない。テーマについて出た意見を無理やり納得させている。
3	関心を持った人達が参加しているはずなので、パネラー同士のディスカッションは少な目にして参加者と専門家のコミュニケーションの時間をたくさん持ってほしかったです。
4	場所がせまい
5	(先生のご意見、大変ご努力でご苦労があったこと心を打たれました)(米国と日本と同等の検査法でという 氏のご意見大賛成) 個体識別検査の方法やと畜処理方法等、やはり、米国の現状では、不安をぬぐい切れない。食肉販売業界の方々は早急にとの一念で今回の結論を輸入開始につながる様な解釈に結びつけて居られると強く感じます。仮説の上での結論であることをあくまでも重視した上で、厚労、農政両省の遵守検証の強力な努力を行って頂きたい。(何かアメリカ側のプログラムに乗せられて日本が動いているのでは・・・と感じています。) 対アメリカ審査も一年に一度位で可となる様ではとても承認しかねます。 氏の発言は、やはり商業主義に片寄っていませんか。広大なアメリカの生産牛の数%が審査可=良となるもので、アメリカ牛全てが適格に確認処理されるのかは、大変苦悶に思っています。この点を日本として米国に強く押して頂きたい。
6	外国の人々も、食の安全には、関心があるはず。貿易は、国際基準で行うべき。輸入再開を早くしてほしい。神経質な主婦は文句があれば、買わなければよい。
7	"答申案"に賛成したい。後は国民1人1人の自己判断にまかせていいのではないかと？
8	厚労省、農水省のパネラーの方のお話ではしなくも、管理の不安定さが見えたような気がしました。管理機関のリスクコミュニケーションをきちんとしよ意見を出しあいたいと思います。
9	この問題に関しては、それぞれの立場、考えが強くあるのでしょうか参加者のマナーの悪さにおどろきました。(ヤジなど)注意できないものでしょうか。
10	・会場がきつすぎる。 ・資料が多かったので机がほしかった。 ・もっと意見を言う時間が長いほうが良いと思う。意見を言う方が少なく、片寄った感じがした。 ・マイクが少ないなど時間のロスが多かった。 ・表示はあとという事だったがとても大事だと思うのでしっかりしてほしい。
11	・会場がせまい。 ・意見交換の時間が短く、充分でなかった。ゆ入を希望する参加者のヤジ(一人言)が、うるさく公平な交換会ではなく、素直にのぞめなかった。礼儀を守るべきである。 ・より一層、国内産牛肉の安全性を確信した。と、同時に、農水省においては、ゆ入が、再開された場合は、消費者が、選べるよう、表示をてっていすべきである。
12	食品を選ぶきちんと判断材料を示すべき。日本の畜産を守るべきだし、加工品に入ってくる牛肉関係・心配です。
13	それぞれの立場からのお話しはわかりやすかった。消費者をして、イヤな人は買わなきゃいいだろうというのは消費者をないがしろにしている。

14	選択が今はできない外食について、原材料の表示ギム化がされるまで輸入はやめてもらいたい。食べたくないものを食べさせられてしまうのはイヤダ。360日×3食全て自分で作り食べる事はやはり不可能だから。
15	・1対1にならないように注意して下さい。わかる人だけわかる話になっていた所があるように思った。
16	本日の出席も企業の人が多いか、消費者の意見は非常に弱い立場(専門性も経験性も)もっと意見を聞いてほしい。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者として、仮定を入れての評価は、とても理解できない。 ・輸出プログラムが本当に遵守されるのか、また日本政府どのように査察するのか？効果はあるのか？ ・ある意味で政治決着としての印象はぬぐえない。 ・結論の中に、付帯事項をきちんと明記した内容にして欲しい。とても重要な内容で付帯事項としての扱いでは無いと思う。
18	講演資料について、手持ち資料とパワーポイントを同じにして頂いた方がわかりやすいと思う。
19	リーフレットと用語集は、希望者のみに配布してはどうか。会場はもう少し配慮して欲しい。リスク評価に対するリスクミなのに、どうしても管理者に対する要望が出てしまうのが残念だ。最後の先生のリスク管理者の管理は、国会もその役割を任うという発言はよかった。消費者も、リスク管理に不安があるなら、自分たちも米国へ行ってどんどん視察してくれば良いと思った。
20	進行、コーディネーターの司会がよかった。
21	色々な意見があり、まとめるのも大変と思うが続けてもらいたい。
22	新聞報道を読むと、どの会場からも米国産牛肉に関する不安・不信の意見が出ていた。この段でなぜ輸入を急ぐのか？もっと時間をかけて消費者の理解を得るべきと考える。今回も消費者の声は無視されてしまうのだろうか。
23	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の生産者について、中・小規模の人の意見の聞ける場があればと思った。(先生の意見 生産者の意見との錯覚の懸念) ・国民の意見をより聞けるようにTVなどを通して伝えてほしい。 ・開催日についても、土日でないため、来れる人が限られる事を改善すべきである。
24	パネルディスカッションが長すぎた。意見交換会を長く。
25	コーディネーターの進行が不十分、会場からの意見もよりよくとり上げるべき。
26	・消費者が今後食品を選択するための判断基準としてわかりやすく説明し、そのための意見交換することが大切なのだと思います。さらにくわしく知りたい人は、答申案や報告書関連資料を見てもらえばいい。もっと基本的な部分の議論をした方がよい。
27	このBSE関連の意見交換会について会を追うごとにまともな意見が出るように感じた。
28	各業界に対して、フェアな意見交換だったと思う。
29	先生ほんとうにご苦労様ですと申し上げたい。

30	先生の「最終決断は消費者！」まさにここに付きと思います。消費者の役割を果たし、こういう場に参加する意義を実感しました。「国がどこまで決めなければいけないか？」をBSEの問題を考える時に、一方で考えていけないと感じています。
31	何回かリスクコミュニケーションに参加しました。毎回、議論がされればされる程、虚しさを禁じえません。話がどうどうめぐりです。立場がはっきりした人が、それぞれの立場から意見を出していますが、接点がない。あくまでも情報交換が大事であると思うが、困難を感じる意外、得るものがない。欲しいのは、より正確な情報である。どこまでが許容範囲であるかは、今の実情では、個々の判断を助ける手段の1つでしかない。発言する人はいつも同じ。発言する内容もいつも同じ。ただ、解決策も見えないのも同じ。果たして、リスクコミュニケーションの機会が本当に有用なのかどうかは、今のやり方では不明。何回か参加したが、形だけ、という印象しかない。
32	今回は、設問内容がわるい。もっと評価できるもので諮問すべきだと思います。意見交換会はいつも同じように思う。何故調整を考えないのか、疑問。消費者は不信任が強い、強すぎると思う。もっとバランスの良いギロンが出来る会合となることを希望、期待します。
33	意見交換会での質問者の質問は、国民の率直な意見が吐露されていると思う。食品安全委員会の関係者たちや各界の専門家の方々も十分拝聴し、考慮してほしいと思う。原料の原産地表示はやはり必要と思います。市民、消費者の方々の敏感な反応は極めて健全であり、十分考慮されなければならない貴重な把握であり、見解であると思います。内容について、再考の余地があります。(要再検討し直し)
34	・「情報不足のための科学的評価が困難」との結論を出しているの、審議不十分のための輸入再開はできないと答申すべきことは命の問題です。将来にむけて、くいを残さないため、日本の子供もたちの命を守るため、仮定の部分が完全に守られてからにして下さい。現時点での再開はしないで下さい。リスクの高い、そして安い牛肉を選ばざるを得ないのはピンボウ人です。そして情報を得られない人々です。不公平です。国は国民の安全を守って下さい。
35	色々な意見が出ましたが、知識をもっとつけて本当にどうすべきか判断できる人が増えなければいけないと感じました。牛・アメリカはも戻ってきてほしいので、よりよき案、方向性が決まれば幸いです。
36	最後の意見交換の時間に消費者団体以外の意見がききたい。例えば一般の方や、学生等
37	・安全性が確実に保証されるまで輸入禁止は続けるべき。「遵守」できないと米国側も述べている状態では、国民ひとりひとりの健康、生命をあずかる立場で政府は考えるべきではないのでしょうか。「100%安全な食品はない」というのを最近マスコミで見たり聞いたりしますが、世論づくりのように思われて、すでに結論があってそれに向かっている気がします。
38	消費者が選ぶべき
39	Panel Discussionの時間を少し短かくし、質問(Q&A)を足すと更によいと思う。
40	座長も「仮定での諮問」は無理であるかもしれないと発言した。これは、行政側のゴリ押しで、無理やり答申を出させようとしている印象が強い。このことから答申は外圧へねじ曲げられているのではないかと思われてならない。後世に「かこん」を残さないために、早急な結論を出すべきではない。牛肉はアメリカ産だけではないのだから。他国を輸入すれば、アメリカも考えを変えようと思う。財界にばかり目を向け、国内農業をおろそかにするのは許されない。工業よりも農業が保護されるべきは当然の節理である。
41	食品、外食等への表示が大切(重要)である 身のある対策を講じて頂きたい。
42	・諮問そのものにif(仮定)の上で評価することに無理がある。人間の命にかかわることを対リスクだけでしてよいのか、そもそも行われている対策が違うのであるから同等性は比較できないのです。 ・ 座長説明資料をHPアップして下さい。
43	輸入再開後の選択肢がきちんと設定されればよしいのではないか。(表示も含めて)
44	時間が短かく感じた。会場が狭い点。

45	<p>・仮定を前提にした評価案であり、実際に20ヶ月齢以下が守られるのか疑問である。米国、カナダに対し、監視及び特に米国に対してトレーサビリティをすみやかに行うよう要求すべきである。また国内のと畜場においても SHIPPING の改善をただちに行う必要がある。仮定の上での結論は結論ではないと思う。BSE は種を超えるのですから、牛肉骨粉のレンダリングは豚や鶏へ提供するはやめるべきである。</p>
46	<p>・外交問題が影響していることが明確な中で、米国の強い要求があるから、輸入再開するために、評価を行う上で不可欠なベースとなる科学的データが不十分であるにもかかわらず無理に評価結果を出していることが、最も納得ができない理由となっている。</p> <p>・評価を行うにあたり、評価する前提となる条件(要件)を食安委は明確にするべき。元々、食品安全基本法は科学根拠に基づき、評価を行うことが明記されていることを再認識すべき。</p> <p>・今回の評価は、食安委として納得できるデータを米国へ要求し、データを得るまで評価をすべきではなかった。筋を通す姿勢が信頼をうむ。</p>
47	<p>日本フードサービス協会の 氏がパネラーとして多くの間違い発言をしていたが、パネラーとして不適格ではないか。5月の答申でもパブコメが募集され1250通の意見が寄せられた。1人10枚とすると12500枚(ダンボール5箱位?)5枚とすると6250枚(ダンボール2~3箱)3枚でも3750枚(ダンボール1箱)の意見を委員全員が連休3日+平日2日で全て「目を通し」た上で「反映する意見・情報がなかった」と結論付けたことに唖然とした。パブコメ大変ですがwebに全部upして下さい。でないと公正中立とは思えない。闇に情報、意見を葬っているとしか思えません。通常の情報も意見も悪口でないものは全て公開すべき。委員長は国民から寄せられた情報を公開審議の場で国民にもわかるように提供すると述べられたにもかかわらず、国会で民主党の議員に指摘されたデータさえ公開審議に資料として配布を行わなかった。何故そのような不審な運営をなされるのか。国民からの重大な情報をとりあげないで行方不明にさせるのはなぜか?「意見交換会」と称しても意見情報を反映しないのだから、会の名称をかえた方がいいのではないか?調査会で代用乳(牛脂+血液)をたべた乳牛を委員が皆心配していたのに結局うやむやにされてしまったので、商社が輸入ターゲット牛にしている。信用できない。米国では狂鹿牛もまんえんしているし、しかもハンターから26人もヤコブ病発生がでて、鹿はいまでもレンダリングに入っているし、集団ヤコブ病発生もおこっている。アルツハイマーとヤコブの誤診の報告もあります。ヤコブ病の調査は半分の州がしていない。もし血液製剤から本当に感染するとしたら薬害ヤコブ、薬害HIVと同じことになることを私は非常に心配しています。消費者の選択は不可能。赤身に他産地の牛脂を針で注射して肉をつくる世の中ですし、給食もあるし子供は判断能力がまだできていないので選択できないし(肉エキス、牛脂などに加工されたり、加工品に入ったら表示できない)。</p> <p>座長は、外食や加工品の表示システムがまともになされていない世の中で、「消費者」の選択ができているとされていることが非常に痛い。事務局の方おしえてあげて下さい。</p>